

第 20 期 2013 年度
ハピネスやくら 事業計画

特養の役割を再考、更に地域ニーズに対応する新たな取り組み
～入りたい施設から、暮らしたい・立ち寄りしたい施設へ～



八幡地区で新たなスタート ハピネスやくら

ハピネスやくら 事業計画

・・・目 次・・・

1. 施設長方針	・・・ 1
2. 特別養護老人ホーム部門	
◎特養マネージャー	・・・ 8
年間スケジュール	
研修計画	
◎生活相談員	・・・ 14
◎介護支援専門員	・・・ 19
◎1F生活援助部門	・・・ 23
1ABユニット	・・・ 28
1Cユニット	・・・ 32
◎短期入所生活介護部門	・・・ 35
1Dユニット	・・・ 36
◎2F生活援助部門	・・・ 39
2Aユニット	・・・ 44
2Bユニット	・・・ 47
2Cユニット	・・・ 50
2Dユニット	・・・ 53
◎医療サービス部門	
看護	・・・ 56
機能訓練	・・・ 60
◎センターオフィス部門	
事務	・・・ 62
食事サービス	・・・ 66
3. 居宅介護支援：ケアステーション ハピネスやくら	・・・ 69
4. 居宅介護支援：ケアステーション ハピネスはちのへ	・・・ 71
5. 訪問介護事業：ケアステーション ハピネスはちのへ	・・・ 74
6. 福祉用具貸与・特定福祉用具販売事業：	・・・ 77
ケアステーションハピネスはちのへ	

2013 ハピネスやくら事業計画

事業名	第 20 期（2013 年度）ハピネスやくら事業計画 施設長方針		
作成者	部署名		役職名 施設長
	氏名	加賀 しのぶ	
年度目標 テーマ	特養の役割を再考、更に地域ニーズに対応する新たな取り組み ～入りたい施設から、暮らしたい・立ち寄りたい施設へ～		
<p>○ 「ユニットコンセプト型特養 ハピネスやくら」運営スタート</p> <p>2011 年 4 月 1 日 八戸市町村圏広域事務組合より、「やくら荘」の民間移譲を受け、「ハピネスやくら」の運営開始から約 1 年後、2012 年 3 月 30 日、八幡地区に建替移転し、地域密着型特養 20 名、個室ユニット型特養 50 名、短期入所生活介護 10 名の「ユニットコンセプト型特養ハピネスやくら」として新しく出発しました。</p> <p>第五期介護報酬改定に対応し、適切な運営が行われること、ご入居者の生活がより良いものとなること、ハピネスやくらが地域ニーズに対応し情報発信していくこと等を目標に掲げ、組織の再編、従来型ケアから個室ユニットケアへ転換、地域貢献事業による地域発信等を行ってきました。</p> <p>ハピネスやくらは、常にご入居者の生活を中心に考えると共に、高齢化率 30%を超える館地区の高齢者福祉に於ける役割を意識しながら運営を進めていきます。</p> <p style="text-align: center;">ハピネスやくら施設長方針</p> <p>「特養の役割を再考、更に地域ニーズに対応する新たな取り組み ～入りたい施設から、暮らしたい・立ち寄りたい施設へ～」</p> <p>移転前と比較し、ユニットケアの意義と意思を形にしたハード面の変化と、従来型の画一的ケアから個室ユニットケアへの転換は、ご入居者の生活だけでなく、組織、職員の意識、業務の組立、ご家族の関わり、地域の期待等、想像以上に大きな変化をもたらしました。</p> <p>同法人ユニット特養からノウハウを学び、他施設の助言を仰ぎ、地域の皆様にご支援頂きながら、失敗や問題から次につなげることを繰り返し、ユニットケア経験者 2 名、生活援助員 36 名中 17 名が経験 1 年未満という中、皆で基本となる道筋を作ってきました。</p> <p>この基本形を更に円熟させ、安定していくため 2013 年度は、特養の役割、「その方が住み慣れた地域で、その方らしく暮らす事」を支援しながら、自立支援、人権の尊重、地域福祉への貢献等、介護保険施設としての役割を意識し、昨年同様、地域福祉へ発信できる施設を目指します。</p>			

施設の新しさ、環境の素晴らしさから入所申込みは後を絶ちませんが、特養の基本である、生活の質に直結する日常生活を、安心して快適になるよう安定させること、更に今後の組織力、職員の質の向上、刺激や生きがいにつながることで、ニーズを発掘し対応することで、「ハピネスやくらで最期まで暮らしたい」と思っただけのよう、職員一丸となって取り組んでいきます。

職員がやりがいを持って働く環境を作ります。研修や事例発表、専門書の購入や定期購読、他施設の見学、更にスポーツで汗を流す機会を作り、職員間の相互理解と、世代や部署を超えたチームワーク作りに努め、五戸やながわの職員との交流を図り親睦を深めます。

また、業務改善や書類の見直しを行い、仕事と休息のメリハリをつけたいと思います。

2013 年度は、施設内に居宅介護支援事業所を開設し、八戸市でも高齢化の高い館地区の在宅介護を支援することを目的とし、更に認知症予防「脳の健康教室」の開設、運営に取り組めます。

1. ハピネスやくら組織体制 (組織図参照)

(1) センターオフィス体制

施設の労務、一般事務、利用者管理、環境整備、当直者を管理する事務部門と栄養管理を行う栄養サービス部門を統括します。更に学習療法のセンター機能を担い、学習療法の円滑な運営、更に地域高齢者の認知症予防に向けた「脳の健康教室」開催に向け、取り組めます。また、衛生管理者を配置し、職員が心身共に健康で働きやすい環境作りを行います。

地域に開かれた施設として、カフェを運営し、地域交流スペースを活用します。

(2) 特養部門

特養マネージャーが中心となり、フロアリーダー以下生活援助員、介護支援専門員、生活相談員を統括します。フロアリーダーは生活相談員業務を担い、入所判定会議から、面談、契約、入居に至る一連の業務を遂行し、ケアプラン立案をします。専任生活相談員は、短期入所のベッド管理、合同行事責任者、ボランティア担当、町内をはじめとする外部との窓口、苦情受付窓口等の業務を行います。

(3) 医療サービス部門

看護部門と機能訓練部門を統括します。看護部門は日常的な健康管理を行い、嘱託医や医療機関との連携や相談窓口となります。看取り、医療連携、口腔リハビリ、感染症対策、褥瘡予防、身体拘束廃止に向けて、中心的な役割を担い

ます。機能訓練指導員は、個別機能訓練及び集団体操等の計画と実施、自立に向けた自助具選定や、安全で快適な生活のため、住環境整備を行います。ご入居者の日常生活全般に関わると共に、職員への腰痛対策、適切な援助技術への指導を行います。

(4) 在宅部門

新たに居宅介護支援事業を開始し、地域の高齢者福祉の現状把握等、地域の高齢者福祉の相談窓口及び、「脳の健康教室」開催に向け、センターオフィスと共に、地域高齢者の認知症予防に向け、取り組めます。

(5) はちのへ営業所

所長を中心に、居宅介護支援事業、訪問介護事業、福祉用具貸与と販売を継続します。特に福祉用具事業は、自社レンタルベッド 55 台の運用を安定させること、八戸市内の利用者増に向けて取り組めます。

2. 各事業運営方針

(1) 特別養護老人ホーム

① 個別ケア、ユニットケアの充実

ご入居者の自己実現に向けて、尊厳を支えるケアを他職種協働及びご家族の協力を仰ぎ、その方が望む暮らしを支援します。ユニットの個性を尊重する上で、第一にご入居者の意向や希望を中心に思考することを基本とします。

② 地域密着型特養の意義を踏まえた運営

20 名の地域密着型特養は、運営推進会議がご入居者、施設、地域、行政、ご家族代表が集う意義のある会議です。相互の情報交換、意見交換等、地域で生活していることを実感し、ご入居者主体の支援をしていきます。

③ 民主的運営

ご入居者自治会を発足させ、受け身だったサービスから、自ら参加、決定することで、自主的に施設運営に関わっていただきたいと思えます。

また、ユニット家族懇親会から家族会へ発展させ、ご家族の要望を引出、積極的に施設運営に関わっていただく機会をつくります。

第三者評価受審、オンブズマン制度（ハネット）へ加入することで、ご入居者の代弁や客観的に施設へアドバイス、気づきにつなげていきます。

④ 余暇の充実

今年度は、ユニット中心で行事やレクリエーションに取り組んできました。その結果、以前のようなご入居者が集う賑わいがまた、個室で過ごす安らぎだけでなく、何かしたいというご希望がありました。

来年度は、定期的なクラブ活動や読書等、わくわく感と学びの機会となるクラブ活動を計画します。

⑤ 地域への発信 地域貢献事業（経常収支差額1%相当）

今年度、初めて実施した地域貢献事業は「従来型ケアから個室ユニットケアへ」をテーマに県内外から110名の参加をいただきました。

来年度は、今年度から取り組んでいる「学習療法」をテーマとしくもん学習研究会やハピネスあだちの職員に、ご協力を仰ぎ、認知症予防について地域に発信していきます。

季刊誌をグレードアップ。年4回発行し、施設の活動について発信します。施設関係者だけでなく、地域にも配布していきます。

⑥ 職員の専門性を向上させ、ご入居者の生活の質を高める

＜ハピネスやくらが求める職員とは・・・＞

- ・高齢者介護のプロとして自覚を持ち、専門性向上に積極的に取り組む。

職員の3H・・・「Heart」 ～ 心、思いやりの気持ち

「Hand」 ～ 技術

「Head」 ～ 知識

- ・ネガティブ⇒ポジティブへ（マイナス面とプラス面は表裏一体、多方面から分析する力、そして建設的で前向きに物を捉える）
- ・笑顔、挨拶、身だしなみ「接遇の向上」
- ・「ご入居者中心」に物事を考える
- ・「自分」だけでない「チーム」の大切さを理解する

- 1) 職員ひとり一人の目標設定を共に考え、研修を計画し、施設で支援します。
- 2) 褥瘡を作らない、完治させる褥瘡ゼロの取り組み
- 2) 職員ひとり1人の目標設定と施設からの支援
- 3) リスクマネジメント 「ヒヤリはっと報告年間100件」

⑦ 社会福祉法人の減免 低所得者対象に実施します。

⑧ 稼働率の安定

特養、短期入所とも96.7%を目標にします。

ベッド管理は生活相談員の計画的な待機者を作る業務が核となります。
 また、生活に於いて不必要な入院を防ぐために、職員の技術、観察力、連携が
 不可欠であり、囑託医との連携は医療部門中心に他職種で取り組んでいきま
 す。計画的に入居に至った後、ご入居者の生活がその方らしく、良いものとな
 るために、「ケアプラン」はご入居者とご家族の意向を中心に、手順やポイン
 トを明確に盛り込み、ユニットや専門職間で共有します。

(2) 在宅サービス

居宅介護支援センターを開設し、地域高齢者のニーズを把握、対応し、地域で暮ら
 し続けるための支援をします。

地域で元気に暮らし続けるための支援として、認知症予防の「脳の健康教室」開催
 に向けて、センターオフィス職員と協働で取り組みます。

3. 委員会活動

委 員 会	活 動 内 容
学習療法	学習療法の導入、評価、窓口、事例検討、見学会企画 「脳の健康教室」の開設に向けて企画、運営（主）
医療行為連携	介護への指導、登録手続、医師との調整、家族支援
看 取 り	看取り教育、マニュアル見直し、実践、検証、事例検討
口腔介護リハビリ	口腔介護リハビリの準備、運営、職員研修、
感染症・食中毒予防	マニュアル作成、マニュアル実践と徹底、啓蒙活動
衛 生	職員の心身の健康維持に向けての取り組みとして、儀要務 改善の励行、職員のレクリエーション企画と実践、産業医 との連携、啓蒙活動
事故防止・苦情対策	分析、事例検討、再発防止策の経過検証、啓蒙活動
褥瘡予防（入浴）	褥瘡予防、治癒に向けて取り組み、皮膚トラブルの検証
排 泄	介護用品のコスト管理、注文、トイレ誘導の励行
防 災	年3回の防災訓練計画、日常的な防災への取り組み
研 修	施設内外の研修計画、発表の場を企画、地域貢献事業
広報・地域交流	季刊誌の作成と有効活用、地域行事への参加
身体拘束廃止・虐待防止	虐待の調査、職員研修の開催、事例検討、廃止への取組

4. 予算の統制

収支差額目標に向けて職員一丸で取り組みます。

5. コンプライアンスへの取り組み

月に一度、各マネージャー及び施設長により、介護保険法、老人福祉法、労働基準法、個人情報保護法、記録整理、身体拘束、虐待、契約等に於いて法令遵守されているか、毎月の施設連携会議に於いて確認します。

6. 民主的な施設運営を目指して

① 運営推進会議の開催 (地域密着型特養) 生活相談員担当

開催日時	奇数月 第三木曜日 13:30~14:30
参加者	ご入居者代表 ご家族代表、八戸市担当者、地域代表 施設長、フロアリーダー、ユニットリーダー、生活相談員、 施設マネージャー
内容	施設と地域との情報交換、意見交換、要望の確認等 実態の報告等

② 第三者委員会 施設マネージャー担当

開催日時	年2回 (5月、11月)
参加者	八幡地区婦人部代表 (地域代表) 株式会社ポラリス代表取締役 (学識経験者) 施設地用、施設マネージャー、リスクマネージャー、生活 相談員
内容	施設と地域との情報交換、意見交換、要望の確認等 ご入居者、ご家族、地域等からの苦情及び対応について助 言指導を仰

③ 第三者評価受審 青森県社会福祉協議会の第三者評価受審結果に対処する。

④ NPO法人 ハネット福祉オンブズマンによる入居者の代弁や助言の機会を作る。

◎新たな取り組み

① 地域の在宅高齢者に対する認知症予防の取り組み

・・・ 「脳の健康教室」年度内開催に向けて

目的) 地域の力を地域に還す 在宅認知症予防の取り組み

施設のパワーを地域に還元すること

在宅サービスの第一歩として、実態とニーズを把握する

2013 ハピネスやくら事業計画

対象者) 館地区在住の高齢者 10名

開催日) 週1回 10:00~12:00

支援者) 施設側2名、ボランティア2名 ※ボランティア教員退職者を中心に募る

担当) センターオフィス部門、ケアステーションハピネスやくら

※館地区の高齢化率は、30%を超え、八戸市内でも高齢化率が高い地域となっています。

八戸駅や市中心部が近く、落ち着いたある住みやすい環境と、地域の行事や住民組織は、60~70歳代中心であるという特性から、教員退職者等のマンパワーを引出し、「スマートエイジング」への取り組みとして「脳の健康教室」を計画し、地域の力を地域に還元するコーディネートをしたいと思います。

旧来の「特養」のイメージを払拭し、「ハピネスやくら」に行くと元気になれると感じていただけるよう、認知症の予防がいかに大切であるかを伝えながら、地域の高齢者がはつらつとした生活を長い期間送るために、私たちができることを考え、地域の認知症予防の一役を担いたいと思います。

現在、やくらの在る地区は、八戸市の福祉計画に於いて「田面木、館、豊崎」が一地区として総合されています。

やくらから車で1~2分の田面木地区には精神科を要する在宅介護支援センター「たえみ」があり、認知症サポーター育成や、系列医療法人が運営する老健やグループホームでの認知症高齢者介護の実践と、財団を設立し、認知症の研究や、予防、対策に積極的に携わっています。

館地区には、一般型の通常型デイサービスが一か所のみで、隣接している地区のデイサービスに通っている方がほとんどです。

ハピネスやくらデイサービス開設に対する要望が多い中、既に特養で実績のある「くもん学習療法」を、地域高齢者の認知症予防の為に「脳の健康教室」にスライドするための十分なニーズ把握と、学習サポーターの発掘、施設に足を運んで頂くための目的作り等、地域との連携を図り、情報収集に努め、既に取り組んでいる「ハピネスあだち」や他施設に協力を仰ぎながら、企画していきます。

②第5期内(26年度まで)のデイサービス開設に向けて

八戸市は、第5期介護保険計画で開設予定の「認知症デイサービス」1箇所の開設に向けた公募を5~6月に開始予定です。

ハピネスやくらが公募要綱を満たす場合、積極的に公募に手を挙げたいと思っています。

2013 ハピネスやくら事業計画

事業名	特別養護老人ホーム ハピネスやくら			
作成者	部署名	特養	役職名	特養マネージャー
	氏名	石藤 則子		
年度目標 テーマ	プロとしてのやりがいを見出す ＝ ご入居者・職員の生きがいにつなげる			
<p>2013 年度施設長方針「特養の役割を再考、更に地域ニーズに対応する新たな取り組み～入りたい施設から、暮らしたい・立ち寄りしたい施設へ～」を受けて、特養マネージャーとして「プロとしてのやりがいを見出す ＝ ご入居者・職員の生きがいにつなげる」を年度目標、テーマとし事業計画を立案致します。</p> <p>～現状～</p> <p>新設移譲となった初年度の 2012 年、介護現場の職員の半数が経験が浅くユニットケアについての知識も薄い状況でのスタートとなりました。5 つのユニット、20 名の従来型にはそれぞれユニットリーダーを配置してはいましたが、ユニットリーダーもまたどういうユニットを作って行こうかと試行錯誤の初年度でした。</p> <p>前年度は各ユニットリーダーが事業計画を立て説明会を行いました。ユニットリーダーは自分のユニットの目標を設定し、どういサービスを提供していきたいか各々会議を重ねました。</p> <p>勤務形態も初めて経験する時間設定であり、4 月から 6 月くらいまでは新人職員は日勤のみで、早番・遅番・夜勤のシフトに入る職員は限られている状況でした。どの時間帯で何をどこまでやれるか、やった方がいいのか、従来型のような一同に会しての申し送りも難しいため、つなぎつなぎで伝えて行くだけ、なかなか情報も共有できにくいことで課題も多く見えてきました。</p> <p>新人に先輩職員が付いて指導する OJT の体制もとれていませんでした。そのため、業務の流れは覚えた、やるべき作業はこなせるようになった、しかし自分の技術や知識に自信が持てないという職員が大勢いることがわかりました。研修を多く取り入れる必要性を感じ、施設内研修の他、2 ヶ月に 1 回の職員会議を年度の途中から毎月開催し、研修報告発表や勉強会の場として活用してきました。</p> <p>全体で教育できることとユニット単位で取り組んでいく事を明確化し、ご入居者が望む暮らしの支援と職員が仕事に対するやりがいを見いだせるための方策を、来年度の課題設定とします。知識と技術が伴えば、自分に自信が持てプロとしての自覚に目覚めることができる、ご入居者へのケアも良いサービスが提供でき質の向上へとつながると考えます。</p>				

(1) 特別養護老人ホーム

①個別ケア、ユニットケアの充実

現在はユニットリーダー研修修了者が4名、来年度は2名の申込みを予定しています。個別ケアについては24時間シートを用い既にデータはとってあるため、来年度はケアプランに反映させながら、ひとり一人の生活スタイルにあった暮らしを提供していきます。

②地域密着型特養の意義を踏まえた運営

2ヶ月に1回の運営推進会議は、施設と地域との情報交換・意見交換の場であるため、来年度も生活相談員、フロアリーダーと協力しながら参加して行きます。

③民主的運営

2012年度は自治会準備委員会を発足したため、2013年度の自治会設立に向け準備を進めて行きます。「ご入居者自らの責任で考え、参加し決定する」、自由と責任、自立と連帯を持って明るく住みやすい安心して暮らせる施設作りに大きな役割を担っていくために、生活相談員、フロアリーダーと共に事務局として支援して行きます。

今年度はユニット懇親会を一度しか開催できていないため、来年度は定期的開催に向け計画を立てていきます。家族会発足に向けた準備も兼ね、フロアリーダー・ユニットリーダーと協力していきます。

2012年度は第三者評価を受け、利用者満足度調査と職員の自己評価を実施しています。外部からの助言を真摯に受け、風通しの良い開かれた施設を目指します。今年度の利用者満足度調査における結果を踏まえ、改善を図って行きます。

④余暇の充実

今年度は施設職員側でのみ計画を立て、行事やレクリエーションを提供していた感がありました。3大行事の夏祭り、敬老会、新年会にご入居者の意見も取り入れたものではありませんでしたが、自ら参加型ではなかったためご入居者の希望を取り入れたクラブ活動を計画します。「楽しみを増やす」「活動の場を持ち他者と関わっていく」生きがい作りに携わって行きます。

⑤地域への発信、地域貢献事業

今年度の広報委員会では、季刊誌「NEW HAPPY やくら」を7月創刊号、10月、2月の3回発行しました。広報誌は職員紹介やご入居者の紹介、やくら散歩の名前で地域の名所を訪ね歩いたり、行事の報告や施設の活動内容を発信する大事な役割となっています。来年度は遅延することなく計画的に年4回の発行を行って行きます。

今年度の第1回地域貢献事業を来年度はさらに地域の方々に広報活動を広げ、ハピネス

やくらの恒例行事として知名度を高めていけるよう、4大行事に組み入れ準備を進めていきます。

⑥職員の専門性を向上させ、生活の質を高める

- ・職員会議を毎月開催し、計画立てた研修を行って行きます。
- ・外部研修内容によつての適任者をリストアップし、研修へ輩出し内部の職員研修へフィードバックさせていきます。
- ・資格取得の受験資格保持者について、資格取得に向けた支援を行って行きます。
- ・新人、中堅、ステップ毎の研修を行う事は勿論、個人面談にて不安や悩み解決の相談を受け付けていきます。しいては退職に至る前に原因を見つけ対応策をたて、個人目標を達成できるよう支援を行って行きます。

⑦稼働率の安定

- ・稼働率は96.7%を目標とします。
- ・フロア毎に、フロアリーダー中心に稼働率の意識付けを図って行きます。フロアリーダーは生活相談員と連携し、待機者確保の業務を担います。今年度は新規で入居された方の入院や退居が、退居者17名中7名と多かったこともあり、現場で必要な情報が的確に拾えていなかったのではないかと反省点から、フロアリーダーの関わりが不可欠と考えています。来年度は申込者への声掛けから面談、契約、入居の受け入れに至るまでの一連の流れに関わって行きます。フロアリーダーがご家族との窓口としても役割を今まで以上に発揮できる体制作りに取り組んでいきます。
- ・ユニットリーダーは、看護と連携しご入居者の健康管理が出来るよう、情報を共有し観察する力を身に付けて行きます。全体で必要な勉強会や研修は継続して行い、実技的な物についてはユニット毎や個別で実施して行きます。入院者を減らすことは勿論、空床利用の受け入れにも協力できるよう、ショートステイ担当者とも連携を図って行きます。

<学習療法>

- ・学習療法実施者として、参加することが楽しいと思つて頂けるよう支援して行きます。「今日は何の日」「季節にあつた事柄」等を事前に情報収集し、コミュニケーションに活用したいと考えます。

<口腔リハビリ>

- ・看護、管理栄養士、理学療法士、生活援助員、他部署と連携し継続して取り組んで行きます。今年度は専門職が前面に出ていた感があり、現場の生活援助員の関わりが薄かった点を課題とし、来年度は生活援助員が中心となれるよう口腔リハビリ委員会の委員も充実させて行きます。

<看取り介護>

- ・2月18日現在、看取り介護を実施している方は7名となっています。
- ・今年度までは、ご家族への説明は看護とケアマネージャーだったこともあり、実質関わりの大きい生活援助員は、看取りに至った経緯がわからないまま、不安な中で看取り介護を受け入れていた現状です。全体での勉強会はありましたが不安は拭いきれませんでした。来年度は看取り開始になる事前のカンファレンスを実施し、ユニット単位で話し合いを持つ流れを整備して行きます。ご家族の気持ち、医師の判断、ユニットではどういう関わりができるか、どのように過ごせることがベストか、何が不安でどんなことが心配か等をカンファの中で話し合っていきます。生活していた場で最期を迎えるという事は、安心できる場として施設が選ばれたことを意味すると思えます。

<身体拘束ゼロを目指して>

- ・現在ハピネスやくらでは、身体拘束実施者が5名（1名入院中）となっています。入院し鼻腔からの経管栄養となったため、チューブの自己抜去防止のため身体拘束を行っている方が2名増えています。
- ・今年度は退院の情報があっても、病院で拘束を実施していればそのまま受け入れてしまっていた状況です。来年度は退院が決まった時点で状況確認に出向き、代替えの方法を探るための話し合いを行っていきます。鼻腔から胃ろうへの移行も看護・ご家族の協力と理解を得ながら進めていきたいと思えます。



第1回 地域貢献事業

2013年度研修計画

4月

1) 事業計画発表
・施設長・専門職・FL・UL
2) 接遇①
講師：石藤M

5月

1) 急変時の対応①
講師：中里M
2) 就業規則
講師：田中M

6月

1) 記録の書き方①
講師：夏井FL
2) 車椅子の扱い方
講師：成田PT

7月

1) 感染症① (食中毒、皮膚疾患)
講師：中里M
2) 口腔リハビリ①
～食の安全～ 講師：下柘欄管理栄養士

8月

1) ケアプランについて
講師：石藤M
2) リスクマネジメント①
講師：松橋L

9月

1) 特養入居までの流れ
講師：相談員
2) 看取りについて①
講師：看護職

10月

1) 接遇②
講師：マネージャー
2) 排せつ
講師：藤崎SFL

11月

1) 急変時の対応②
講師：類家看護
2) 感染症② (ノロ、インフルエンザ)
講師：中里M

12月

1) 身体拘束廃止、虐待予防
講師：身体拘束委員会
2) 記録の書き方②
講師：山村SFL

1月

1) 学習療法
講師：学習療法委員会
2) 褥瘡
講師：褥瘡委員会

2月

1) 口腔リハビリ②
講師：口腔リハビリ委員会
2) 事業計画報告
講師：各マネージャー

3月

1) 看取りについて②
講師：看取り委員会
2) リスクマネジメント②
講師：リスクマネージャー

※研修は職員会議内で行っていく
職員会議は毎月第4火曜日 18:15～

2013 ハピネスやくら事業計画

事業名	特別養護老人ホーム ハピネスやくら			
作成者	部署名	特養	役職名	生活相談員
	氏名	中里 裕行		
年度目標 テーマ	解放感のある施設を目指し地域に発信する			

旧やくら一部屋 6 人の多床室から新ハピネスやくらへ 3 月 30 日に移り約 1 年になろうとしています。ユニット型個室 50 室、従来型個室 2 室、多床室（2 人部屋）9 室になり、ご入居者の生活に大きな変化が生じました。また、ショートステイ専用 10 室を稼働し、ご利用者も増え、ご家族、地域の方々にも大きな変化が生じました。面会時間が長くなりご家族との充実した時間を過ごすことが出来るようになり、施設内の笑顔が増えました。新しい施設が出来て地域の方々の関心も高まってきています。特養のイメージを払拭し一般の方々でも気軽に遊びに出向きたくなる特養を目指します。

1. 稼働率の向上・安定化

昨年度は 3/30 旧ハピネスやくらからご入居者 54 名が引っ越し、新規ご入居者 16 名が入所されるまで 18 日を要しました。ショートステイは営業不足のためにご利用者がなかなか伸びませんでした。その反省を踏まえ今後は待機者を一か月 5 人確保していきます。ショートステイは確実に 10 室満室、空床のショートステイも速やかに利用できるように営業していきます。今年度は居宅介護支援事業を開設することによって、連携を密にして、新規ご入居者、ショートステイご利用者に繋げていきます。多床室 20 床が地域密着型の指定を受けているので八戸市在住のご入居者が地域での生活を継続できるため、運営推進会議等を通じて地域との情報交換を行います。他市町村のご入居者も地域密着型の多床室に入居のため、各保険者との連携を密に図っていきます。

◎稼働率（2012 年 4 月～2013 年 2 月）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
日数	2100	2170	2100	2170	2170	2100	2170	2100	2170	2170	1960	2170	2129
実績	2002	2094	2026	2119	2096	2017	2094	1992	2073	2067	1876		2041
特養	95.3	96.5	96.5	97.6	96.6	96.0	96.5	94.8	95.5	95.3	96.1		96.02
特養	2226	2394	2346	2403	2409	2379	2414	2353	2442	2433	2222		2365
+SS	92.8	96.5	97.8	96.9	97.1	99.1	97.3	101.8	98.4	98.1	98.3		97.64

2013 ハピネスやくら事業計画

上半期（4月～9月）の稼働率：96.7%

下半期（10月～3月）目標の稼働率96%を目指すために3月は97%以上を稼働させていきます。

2013年度の稼働率を特養単独で96.7%を目標とし、そのためには入院者を1日1名として空床はショートステイの空床利用で活用し稼働率のアップに繋げていきます。

◎入退居者状況（2012年4月～2013年2月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
退居	1	3	1	2	2	1	1	2	2	1	1	0	17
入居	15	3	1	1	2	1	2	1	3	1	1	0	31

・3月31日に2名御入居

* 退居者の状況（17名）

- ①施設にて死亡退居となったご入居者は、6名でした。うち1名は看取り対応でした。
- ②医療機関にて死亡退居となったご入居者は8名でした。
- ③医療機関に入院となり、治療が2、3ヶ月と診断され、即退居されたご入居者は1名でした。
- ④医療機関に入院となり、家族が延命治療を強く希望し退居したご入居者は1名でした。
- ⑤家族の事情により自宅介護になり退居となったご入居者は1名でした。

* ご入居者の状況（29名）

- ①4月は新ハピネスやくら定員増のためのご入居者です。他施設との連携の不備があり、満室までに18日を要しました。
- ②5月以降はご入居者の退居に伴う新規ご入居者となっております。
- ③退居から入居までの日数は、最小で0日、最大で15日となっております。平均すると5.25日となります。

以上の反省点から2013年度は、待機者を5名以上を目標とし、待機者確保に向け面接、入所判定会議を計画、実施していきます。退居者が出た場合のアプローチを迅速に行い、ご入居までの目標日数を7日とします。

2013 ハピネスやくら事業計画

◎入院述べ日数（2012年4月～2013年2月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
日数	62	26	74	47	61	58	55	93	75	99	75	0	725

- ①長期入院が見込まれ退居へ至ったご入居者3名（期間0日、0日、62日）
- ②退院後看取り対応となったご入居者1名（期間23日）
- ③退院を繰り返しているご入居者12名
- ④看取り対応には現在6名のご入居者がおり、身体機能の低下に伴い対応となった。

2013年度は嘱託医変更の予定のため、医療と福祉が一体化する事が予測できるも、看護部門、介護部門と密に連携し、ご入居者の状態を観察し早期に異常を察知し対応します。そのためには、専門の方の助言、研修会も必要と考えます。しかしながら入院者が出たら、速やかに空床を利用してのショートステイの有効活用を促していきます。

◎入居受け入れ手順

- ①申込み ・ ・ 契約者（身元引受人）を含むご家族に来所していただき簡単な聞き取りと料金説明、見学していただき申込書を渡し、家族記入欄とケアマネージャー記入欄を説明します。
- ②面接 ・ ・ 申込書を元に入居希望者が生活されている場へ出向き状態、状況を確認します。主にフロアリーダーが行いますが必要に応じて看護職員も同行します。また、この際、健康診断書を渡します。
- ③入所判定会議 ・ ・ 面接と健康診断書の結果を元に入所判定会議を行います。参加者は特養マネージャー、生活相談員、フロアリーダー、看護職員です。
- ④要事項説明 ・ ・ 施設内にて契約者（身元引受人）と行います。
- ⑤ご入居 ・ ・ ご入居当日は生活相談員、フロアリーダー、看護職員、御家族の意向調査を行い契約を交わし安全な施設生活が営めるよう配慮します。

2. 自治会発足

2013年1月にご入居者13名に集まっただき、自治会が発足しました。会長も選出され、副会長2名、会計2名も選出され、毎月会議を開催していく事が話し合われました。職員がサポートしこれからご入居者様が楽しく生活していく橋渡しとなって企画していきます。

3. 家族会発足

また、これを期に家族会の発足に繋がりたいと考えています。ユニット懇親会を開催し、多くの御家族様に集まっていただき主旨を説明し賛同していただき発足に繋げ、行事のお手伝い、ボランティア活動に繋がっていきたいと考えています。

4. ボランティアの受け入れ

2013 年度にもボランティアの方が多く参加していただきました。2013 年度はより多くのボランティアに参加していただき、ボランティア自身もやりがいを感じていただける環境を作ります。

- ①八戸市いきいきポイントの活用を行いボランティアの積極的な受け入れを行います。
- ②クラブ活動の講師として定期的にボランティアに来ていただきクラブ活動の活性化を図ります。
- ③生活一般のボランティア（清掃、会話）

5. 地域交流

2012 年度は地域との交流は招待を受けての参加でした。夏祭り、敬老会、地域貢献事業には各町内会長をご招待し行いました。地域交流スペースを使用しての婦人会の踊り、町内の会議等まだ使用されていないのでこちらから町内会の定期会議参加や町内活動（公園掃除等）を積極的に参加し町内会の一員と認知していただけるようにしていきます。

- ①地域の保育園、小学校、中学校、婦人会、サロンなどにボランティアを依頼し、地域住民との交流を図ります。
- ②八戸市や地域のイベントに積極的に参加し、御入居者に地域交流の機会を設けるとともに、地域にハピネスやくらの周知を図ります。
- ③やくらの新聞を地域に発送し様々な情報を発信していきます。

6. 四大大行事

2013 年度は四大大行事の主旨、計画を早くに取り掛かり、ご入居者、ご家族、地域の方々、来賓の方々、ボランティアの方々、職員一同が楽しく満足出来るものを提供する。

- ①夏祭り
- ②敬老会
- ③地域貢献事業
- ④新年会

7. 生活相談員業務

- ①各フロアリーダーが生活相談員業務を担い、入所判定から面接、契約、ご入居に至る一連の業務を遂行し、ベット管理を行うことで、指導、相談、管理を重要視します。
- ②専任生活相談員は各フロアのフォロー体制と短期入所のベット管理、合同行事責任者、ボランティア担当、町内をはじめとする外部との窓口、苦情受付窓口等の業務を行います。
- ③常時入居待機者を5名以上を目標とし、待機者確保を計画的に実施します。
- ④退居者が出た場合のアプローチを迅速に行い新規入居までの目標日数を7日とします。
- ⑤短期入所の10室利用者を計画的に利用していただき、空床の短期入所も適時利用していただく様にアプローチします。年間稼働率96%を目指します。

2013 ハピネスやくら事業計画

事業名	特別養護老人ホーム ハピネスやくら			
作成者	部署名	特養	役職名	介護支援専門員
	氏名	石藤 則子		
年度目標 テーマ	「自分の生活スタイルで、 最期までここで暮らしていきたい Part 2」			
<p>2013 年度施設長方針「特養の役割を再考、更に地域ニーズに対応する新たな取り組み～入りたい施設から、暮らし続けたい施設へ～」を受けて 2012 年度の目標を継続し「自分の生活スタイルで最期までここで暮らしていきたい Part2」とし事業計画を立案致します。</p> <p>～現状～</p> <p>2012 年度は従来型特養から個室ユニットケアコンセプトの新施設に建替移転の年でした。前年度の 10 月と 2 月にはご家族へ①利用料金、②生活がどう変化するかの説明を個別で行いました。ご家族の中には料金面を心配されている方も少なくありませんでした。先にユニットケアを実施しているながわのお部屋やリビング、食事風景の写真を目で見てイメージして頂き、6 人部屋から個室に移ることで、生活がどのように変化していくか想像して頂く機会を作りました。お部屋には専用のトイレと洗面台、クローゼットが備え付けられており、自宅で使用していたお気に入りの家具や身の回り品を持ち込んで頂く事で、安心した自分の居場所が作れること、例えばお部屋にイスやソファを持ち込んで頂いた場合は、ご家族の面会時ゆっくりお部屋で寛いで頂いて構わない、遠方からの面会時は宿泊する事も可能であることもお話ししてきました。逆に、良い面だけではなくリスクの面からのお話しもさせて頂きました。例えばユニットになり個室になると職員の配置が分散され人がいないように感じられてしまう、いつも部屋に閉じこもっているように感じるかもしれない、人権に配慮し、基本お部屋の扉は閉めているため、部屋で転倒等の事故が発生した際は発見が遅れることもある等の説明をしご理解をお願いしました。</p> <p>3 月 30 日、新しい施設での初めての夜、職員の心配もよそに皆様よく休まれていたそうです。6 人部屋の時は同室の方の呼び声や物音で眠れないと話されていた方からは、個室になって良かったとの感想を伺いました。寝たきりだから個室なんていらないとお話しされていたご家族も、親戚の方を連れてこられ見学会のような説明をされていたこともありました。法人間移動では 2 名の方が、自分の生まれた土地に戻りたい、ご家族の希望ということでながわと五戸へ移られています。</p> <p>環境が変化したことで生活もどのように変化して行くのか、期待と少しの不安の中各ユニットリーダーが事業計画を立て説明会を行いました。ご入居者を 5 つのユニットと 20 名の従来型に部屋割りし、職員配置も決めました。ユニットリーダーは自分のユニットの目標を設定し、どういったサービスを提供していきたいか各々会議を重ねました。ご入居者の</p>				

部屋割りでは、特浴室が1階にあるため動線を短くと考え特浴対象の方を1階へ、食事介助が全介助の方が各ユニットに1~2名、経管栄養や医療行為の方は各ユニットに2名~3名とし、保険者が市外の方は必然的にユニット型へ部屋割りを組みました。

ユニットリーダーが提供しようとするサービスと、ご入居者の望む生活がケアプランにどのように反映されていくことが一番望ましいのか考える時、プランを活かしケアにつなげていくことの必要性を痛感させられます。

11月に行われた地域密着型の現地指導において、ケアプランがご入居者の生活に一番深く関わるものであり、重要性を再認識させられた次第です。情報収集のアセスメントが不十分できちんと分析できているか、曖昧なケアプランになっていないかと問われれば不安は否定できません。70名に対し兼務のケアマネージャーで不足な部分については、来年度はケアマネージャー2名体制を取ることで、更にご入居者の要望の実現に向けたプランができるものと考えます。

ケアプランがご入居者の生活の手順書になり、どの職員が関わっても同じようなケアが出来る、ご入居者の要望や必要としている事を吸い上げていく役割がケアマネージャーである基本に返ったプラン作成をしていきます。

1) 看取りケア

2013年2月18日現在、看取りケアを行っている方は7名となっています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
	-1	0	0	0	0	0	+1	0	±1	+1	+1
計	4	4	4	4	4	4	5	5	5	6	7

2012年度(2013年2月現在まで)の退居者17名のうち、長期入院が5名(退居後永眠が4名)、病院で死亡が7名、急変2名、在宅が1名、看取りが2名となっています。急変2名の方は、看取りの対応は取っていませんでしたが1名の方は退院して間もなくであり、様子を見ながら看取りへ移行して行きたいと考えていたため、警察の介入なく囑託医が死亡診断を行っています。

* 加算

- ・4月に永眠された方は3月21日より看取りケア開始し30日の加算算定
 - ・12月に永眠された方は、地域密着型の看護体制が整っていなかったため算定なし
- 1月新規入居の方から、終末期の看取りケアに関する意向調査をスタートさせて頂いています。入居申し込み時や施設の説明時には看取りケアの説明もさせて頂いており、最近はお家族の関心や理解も増している様に感じています。

2013 ハピネスやくら事業計画

2) 認定調査

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計
外部	2	1	2	0	1	1	1	0	3	3	2	16
内部	0	4	0	2	1	3	1	3	0	4	0	18

2012年度の計画にあった、「外部に依頼していた認定調査を施設ケアマネが行っていく」については、32件中半数以上の計18件、八戸市から依頼のあった認定調査を施設ケアマネが実施できており、計画目標を達成しています。5月と1月は八戸市全体で認定調査件数が多いという事で施設への依頼も4件となっています。来年度は月3件までは調査可能と市へ報告しており、継続して認定調査を行っていきます。
介護度の動きと収入については3)の通りです。

3) 介護度の変化

(2012年4月～2013年1月)

	介護度	実施前	介護度	実施後
内部で実施 18名	2	1名	2	0
	3	4名	3	3名
	4	3名	4	9名
	5	10名	5	6名
外部で実施 14名	2	1名	2	0
	3	3名	3	3名
	4	5名	4	5名
	5	5名	5	6名

入居前に要介護度2だった方が状態悪化で区分変更をかけ、要介護度4で認定を受けて入居、入居中で要介護度2の方が状態悪化により区分変更申請をし、要介護度5に認定されたケースがありました。逆に要介護度5の方で経管栄養の方については『4』と認定された方が3名いらっしゃいました。常にその方の状態を把握し、適切な時期に適切な介護度の判断をしていきます。

今年度が更新にあたった方の、認定調査実施前の要介護度の平均は4.13だったのに対し、実施後の要介護度の平均は4.19と0.06ポイントのアップがみられ、今後も重度化がさらに進行することが想像されます。収入については1日約1,500円増となり、ひと月では約45,000円の収入増となっています。安心して施設での生活が継続できるよう、介護度の安定化を図って行きます。

『来年度の課題設定』

1) 今年度は継続してご入居者の生活を考える事を優先とし、家族会の設立や自治会の設立も予定されているため、ご本人やご家族の方々にケアカンファレンスに参加して頂くことを考えています。ご家族も施設と一緒にご本人の生活に関わって頂くことで、さらに施設への理解も深めて頂けるものと思います。

2) リスクマネジメントの取り組み

- ・ 24 時間シートを使いその方の生活リズムやスタイルを把握する（継続）
- ・ 職員がリスクに対する気づきを持てるように教育体制（研修計画）を整備する
- * 目標を立て、個人の目標に合わせた指導方法を確立する
- ・ ご入居者の生活を重視するとともに、それに伴うリスクについても家族へ伝えていく

3) マニュアルの整備

- ・ 実用的なマニュアルを基本に、ルールを徹底する
- ・ 外部の目線で見ると第三者評価受審や運営推進会議の継続

新設移転1年目の今年度は、骨折の報告は0件でした。多床室から個室になったことで、事故の発見が遅れる事は予想しており、リスクについてはご家族への説明も行ってきました。しかし職員の力量には差がある事も否めないため、気づきが停滞し事故やヒヤリの報告は多く挙がっています。24 時間シートを使いその方の生活のリズムはつかめてきているのに活かしていないことが多いため、カンファレンスの中で掘り下げたものにしていきます。(KYT：危険予知トレーニングを取り入れる等)

○まとめ

2012 年度の目標「自分の生活スタイルで最期までここで暮らしていきたい Part 2」を来年度も継続していきます。ご入居者ひとり一人の生きがいは、職員のやる気ややりがいにもつながって行きます。自分の生き方は自分で決めて行く、その生き方の道案内役になれるよう、傍に寄り添った立場で関わりを持たせて頂きます。

2013 ハピネスやくら事業計画

事業名	特別養護老人ホーム ハピネスやくら			
作成者	部署名	特養部門	役職名	1階フロアリーダー
	氏名	松橋 りか		
年度目標 テーマ	ユニットケアと個別ケアの確立 ～笑顔があふれる自分らしい生活を目指して～			
<p>平成 24 年 3 月 30 日に八幡地区へ建替え移転し、ユニットコンセプト型特養へ移行となり、たくさんの期待と不安の中での 1 年が経とうとしています。</p> <p>6 人部屋の多床室から個室に変わり、お部屋の中に自分専用のトイレがあり、一人の時間を存分に楽しんでおられるご入居者の生活を見ながら、昨年 12 月の地域貢献事業でも発表させていただいたように、職員のお手伝いが必要だったご入居者が排泄や移動の動作がほぼ自立に変わったり、おむつ交換だけの排泄からトイレを利用するようになった方が増えたり、環境により生活の質が向上しただけでなく、ADLにも大きな変化が現れたことに驚いています。</p> <p>昨年度は個別ケアを確立するという目標を立てました。ご入居者お一人おひとりを理解し、その方の生活スタイルを重視したケアを心がけてきましたが、まだまだ従来型のケアから抜けきれない部分もあり、ユニットケアの課題も見えてきました。スタッフ間の情報共有やご入居者を中心とした業務の組み立て、それに合わせたスタッフの勤務体制など、ひとつひとつフロアのスタッフと話し合いを行いながら解決していきたいと考えています。</p> <p>ユニットケアの理解も不十分であることから、今年度は「ユニットケアと個別ケアの確立」という目標を掲げ、住み慣れた地域で、ご家族や地域の方々にも支えて頂きながら、「笑顔があふれる自分らしい生活を目指して」をテーマに、他職種協働でご入居者一人ひとりに目を向け、今までのご自分の生活が安全と安心、満足のもとに継続できるように、取り組んでいきます。</p> <p>1. ユニットケアと個別ケアの確立</p> <p>①一人ひとりのニーズに対応した生活</p> <p>ご入居者の生活スタイルを把握するために 24 時間シートを作成しましたが、内容が不十分なところがあるため、積極的にご家族とのコミュニケーションを図りながら情報をいただき、毎日の生活に活用し、ユニットスタッフが変わった場合でもケアの統一、標準化につながるようにします</p> <p>また、どのような生活を希望されるかを伺う機会を設け、その実現に向けた支援を</p>				

行い、ご入居者本人、ご家族も安心できる楽しく安全な生活を提供します。

②施設全体を生活の場に

ユニット内のプライベートスペースとセミプライベートスペースだけでなく、ユニットから出て他ユニットのご入居者との交流、ショップやカフェの利用、散歩や運動などが日常的に、自由にできるようなパブリックスペースやセミパブリックスペースの活用を行い、メリハリのある生活を考えます。

③地域を活用した生活

施設内の自由な生活を楽しみ、地域や学校の行事に出かけたり、お祭りに参加することで、楽しみや生活の意欲を引き出します。また、ショッピングや食事に出かけたり、地域の方々にも施設の行事参加やボランティアをお願いし、積極的に交流を行い、地域の資源を活用した生活をしていただきます。

④美味しく楽しい食事

ご入居者一人ひとりの生活スタイルを考え、時間や嗜好に合わせた食事とキッチンやダイニングの環境を整えます。食欲がないときの軽食として、冷凍のパンや麺類などをすぐに提供できるようにユニットの冷蔵庫に常備したり、引き続き、ユニットのキッチンでご飯を炊き、できるだけ家庭の食事に近付けるような取り組みを行います。その時の気分で食べたいものが食べられるようなバイキング食や選択食も実施したいと考えます。

⑤自治会の設立

個別ケアを進めるうえで、施設やスタッフからの一方的な働きかけだけでなく、ご入居者一人ひとりが自主的に暮らしやすい生活を考え、施設の運営にも参加して頂けるように、自治会設立の準備を支援します。

⑥ユニット内及びフロアでの勉強会の実施

ユニットケアや個別ケアを十分に理解し取り組むために、ユニット会議の場を利用したり、フロア内での勉強会を行い、スタッフの意見交換やユニットケアに取り組んでいる他の施設の情報を伝え合ったり、他施設の見学や交換研修を実施したいと考えます。また、不足な知識や技術を高める場としても、会議や勉強会を活用します。

2. ご入居者とご家族、スタッフとの時間づくり

①ユニット懇親会の実施

前年度は1回しか実施できなかったご家族とのユニット懇親会ですが、定期的開催し施設に足を運んでいただくことでユニットスタッフとの関係づくりと施設に対する理解を得られるように、また、ご家族同士のコミュニケーションも深めていただき、家族会の発足にもつなげていきます。

②定期的な連絡の継続

毎月継続してきた「近況報告」を今年度も実施し、生活の様子や身体状況をご家族へお伝えします。また、施設やユニット行事への参加もお知らせして、面会の回数を増やしていただき、ご入居者と一緒に過ごす時間を多くしていきたいと考えます。

3. 事故防止対策

①24時間シートにより危険を把握する

24時間シートを活用し、ご入居者の行動を制限するのではなく、生活スタイルを把握することで考えられるリスクへの対応を行い事故を防ぎます。

②ヒヤリハットの提出

気づきを多くするため、午後の申し送り時間を活用し、一日を振り返って小さなことでもヒヤリハットを提出します。対応策もその場にいるスタッフで話し合い、不足な部分は専門職からアドバイスを受けます。

③タイムリーな事故カンファレンス

事故が発生した場合は、その日のうちに専門職を含めたカンファレンスを行い、事故分析と対応策を検討し、職員間の情報共有を確実に行います。個人記録にも経過を記録します。

④ユニット会議を利用した振り返り

毎月のユニット会議で、事故報告とヒヤリハットについて振り返りを行い、再度対応策について検討したり、事故防止へのスタッフの意識につなげます。また、会議の中でKYT（危険予知訓練）を行ったり、リスクマネジメントの勉強会を実施し「気づき」を多くしていきます。

4. アクティビティへの取り組み

①定期的なユニット内と施設での活動参加

ご入居者の生活歴やご家族からの情報、状態に合わせた趣味活動を検討、計画して物を作る楽しみや体を動かすことの爽快感により、心と体の健康を維持していきます。

②外部の催し物への参加

美術館、博物館等の公共施設での催し物等にも参加できるようにご入居者への情報発信を行います。施設内の掲示板やユニット内に情報を掲示し、参加を希望する方へは個別ケアとして、ご家族やスタッフと一緒に出かけられるように計画をします。

5. コスト管理により施設経営に参加する

①年間稼働率目標・・・96.7%以上

稼働率 96.7%を維持することを目標に、ご入居者の体調管理や看取りに対する理解を深める対応を進めていきます。

ショートステイと合わせた稼働率も考えながら、積極的に空床利用を行います。入

2013 ハピネスやくら事業計画

院者がでた場合は、各事業所に対して速やかに空床の情報提供をします。

◆平成 24 年度の稼働率状況

	特養日数	実績日数	特養稼働率	SS空床利用	合計日数	合計稼働率
4月	900	874	97.1	0	874	97.1
5月	930	890	95.6	0	890	95.6
6月	900	847	94.1	8	855	95.0
7月	930	924	99.3	0	924	99.3
8月	930	925	99.4	0	925	99.4
9月	900	883	98.1	0	883	98.1
10月	930	866	93.1	12	878	94.4
11月	900	891	99.0	0	891	99.0
12月	930	880	94.6	12	892	95.9
1月	930	900	96.7	20	920	98.9
2月						
3月						
合計	9180	8880	96.7	52	8932	97.2

・年度初めと秋口に入院が多かったことで特養の稼働率は目標に達しませんでした。ショートステイの空床利用があったことで、全体の稼働率はクリアできていました。

急な入院では、すぐにショートステイの空床利用も難しいため、看護との連携を強化し、健康管理に努め、体調変化に早く気づくことでドクター指示による施設内での対応で回復するようにし、入院者を減らしていきます。

・看取りについての意向確認や理解を得られるような働きかけを行い、適切な看取り援助を行うことで、ご入居者やご家族の意向にそぐわない入院を減らします。

②排泄用品の支出削減

排泄委員会を中心に、尿測の実施やご入居者一人ひとりに合った排泄を考え、見直しをすることでテーナパットの継続や他のおむつパットへの変更、トイレ誘導等を勧めてコストダウンにつなげます。

③水道光熱費の節約と修繕費の削減

ユニット内の環境に合わせて照明や空調の調整により、無駄のない使用とキッチンや浴室での適切な水の使用を心掛けます。また、施設の備品は、使用方法を守り適切なメンテナンスを行いながら物を大切に使用することで、修理にかかる費用を削減します。

④適切な労務管理

業務改善や適切な業務の遂行と共に職員の労務管理を適切に行うことで、心身の健康管理に努め欠勤をなくし時間外も減らします。

6. 看取り援助

看取りケアを行っているご入居者は3名となっています。定期的にカンファレンスを実施し、ご家族の意思確認を行いながらその方らしく人生を終えられるように不安のない看取り援助をおこなっていきます。看取り援助になる際にも、そのユニット毎に看取りのカンファレンスを行い、スタッフが看取りを理解できるように支援します。

7. 口腔介護リハビリ

フロアリーダーを中心に食事への不安がある方を対象とし、ファイバースコープや頸部聴診により、安全に美味しく食べるために口腔リハビリの実施を継続します。誤嚥性肺炎のための入院を無くし、加算にもつなげていきます。

8. 学習療法と脳の健康教室

脳の活性化を図ることで認知症の進行防止や改善のために、くもんの学習療法を継続します。生活の中の楽しみにもなるように、全職員が対応できるような体制づくりを行い支援します。また、地域の皆様にも「脳の健康体操」を行い心身ともに健康で生活していただけることにつながると思います。

9. 情報共有

ユニットになったことで、スタッフ全員が顔を合わせることは少なく、交代制の勤務のため、申し送りや情報が全員に伝わりにくいということから、ユニット毎の申し送りノートやパソコンの申し送りを活用します。他ユニットの事故報告書等のコピーや回覧についても、確実に目を通すように確認印やサインをし、ユニットリーダーが情報共有できているかをチェックします。必要な情報は、積極的に発信しユニット内で解決できること、フロアや施設全体で考える事など、組織として素早い対応をします。

1. 現状分析

新ハピネスやくらとなり、ユニットという環境で1年経ちましたが7月から地域密着型ユニットが2ユニットから1ユニットになりご入居者の事を把握することが多くなりました。スタッフ同士の報告、連絡、相談がうまくできずご入居者にご迷惑をかけたこともありました。ご入居者の中には「みんなでいる方がよかった」「一人部屋いいね」と両方の意見がありました。従来型のご入居者は重度の方が多く寝たきりで全介助の方が多いため、私たちスタッフが小さな気付きや配慮が足りず事故報告書があがることがありました。入院者もおり今までに発熱、急性肺炎、低酸素血症と入院される方が3名程おり、現在1名入院中です。経管栄養者も増え、体調をみながら離床し寝たきり状態にならない様に対応しています。褥瘡者も3名おりますが経過良好中です。スタッフも徐々に気付くことが多くなってきておりスタッフ同士で「あの方は〇〇の方がいいのではないかと」と相談して行くことが多く見られてきている状態です。

2. 2013年度ユニット目標

- ・安心、安全、苦痛の無い援助、環境作り
- ・スタッフのスキルアップを図り、ユニットケアへ活かしていく
- ・ご家族との関わりを増やし情報を共有してより良いケアにしていく

3. 2013年度ユニット目標を達成するための決意表明、行動

- ・スタッフで再度ご入居者1人ひとりの状況を再確認し、何を望んでいるか、私たちがどう支援していくかを話し合い決めていく。
- ・気付きを増やし事故を減らす為にスタッフ同士で観察、指摘しあい、情報を共有していきたい
- ・ご入居者担当スタッフだけではなく、ユニット職員全体で家族との関わりを増やし、担当だけでなく全スタッフでユニットケアに活かしていきたい。
- ・介護技術不足もあり、スタッフ間でも知識も違うため、統一したケアが出来るように報告、連絡、相談を欠かさずに「声を掛け合い、一つの事に集中するのではなく周りの状況を把握しながら」を意識しながら日々の援助に取り組んでいきたい。
- ・寝たきり者が多いため、褥瘡を作らないように体位変換、陰洗を再度確認し皮膚トラブルが起きない様に皮膚観察を怠らない
- ・前年度ユニットケアで挙げたフットバスをしていなかったため新年度になる前に購入し夜間安眠効果、保温によるリラクゼーションをしていく

2013 ハピネスやくら事業計画

4. 2013 年度ユニット事業計画（詳細）

行事		ケア（食事、排泄、入浴など）	住環境	
			居室	リビング ダイニング
4月	家族懇親会	<p>（食事）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な食事形態を提供する。 ・口腔リハビリを受けた方たちが安楽に楽しく食事できるようにリハビリを継続していく。 <p>（入浴）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特浴者が多い為入浴が混みこみの状態な為現在より余裕をもって入って頂くように時間、入浴人数を再度考える。 <p>（排泄）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寝たきり者が多く排便困難者もいる為、看護と連携し清潔かつご入居者に苦痛を与えない様に協力していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ADLに合わせた必要な物や、要望に沿ったなじみの物や嗜好を知り、ご家族への協力をお願いする。 ・整理整頓、清掃をまめに行い、清潔で快適な居室作りをする。 <p>週1回のフットケアの実施</p> <p>夜間安眠、安楽効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全第一で過ごしやすい設えを考え、自宅のような居心地の良いくつろぎ空間を目指す。 ・清掃の徹底。 ・季節の花や緑など、季節感のあるさりげない装飾を行う。 <p>楽しくコミュニケーションを図り、親睦を深める場をつくる。</p>
5月	野菜栽培 運営推進会議			
6月	誕生会 映画鑑賞			
7月	夏祭り 花火大会 運営推進会議			
8月	三社大祭見学			
9月	敬老会、誕生会 運営推進会議			
10月	ドライブ 映画鑑賞			
11月	懇親会 誕生会 運営推進会議			
12月	クリスマス会			
1月	新年会 運営推進会議			
2月	豆まき、誕生会			
3月	ひな祭り 運営推進会議			

2013 ハピネスやくら事業計画

5. 各立場とのチームワーク目標

フロアリーダー(サブ含む)	ユニットに入る他職員	家 族
相談、連絡をまめに行い情報の共有に努め、変化や問題点に効率よく対応できるようにする。	日々の情報交換、目的や意識の確認を行う。意見を出し合いよりよいユニットケアに向け協力しあう。	積極的に関わり信頼関係を築いていく。 共に入居者様の暮らしの充実、環境等について話し合い協力し合っていく。

6. 各種取り組みの現状と目標

	事故防止対策	口腔リハ	看取り	学習療法
現状	現段階で事故報告は減っており、ヒヤリハットがあがってきている。	現在 5 名 1A 木村 せん様 1A 佐藤 キクエ様 1B 紫葉 雪雄様 1B 河目 トミ様 1B 佐々木 イト様 の方が口腔リハビリ実施中である。	現在 2 名 1A 千葉 一二様 1B 河目 トミ様	現在 3 名 1A 鳴海 勢子様 1A 小山 そよ様 1B 冷水 健二様
目標	事故報告書で気付くのではなく、事態が大きくなる前に再度気付きとは何か、またポイントを抑え対応していく。再度指導していき、ユニット会議で話し合っていく。 (毎月)	安全に摂取していただく為、ドクター指示の元注意点を把握しながら日々の観察し状態変化あった場合は再度ドクターへ報告していく。	ご家族様に正しく理解していただく。入居者様、ご家族様の思いを尊重し、ニーズに合わせた対応をしていく。又スタッフも再度看取りについて研修し対応できるようにしていく。	入居者様、ご家族様と相談し理解を得る。入居者様の楽しみの 1 つとなり、生活の活性化、意欲、自信へとつながる。

※ 運営推進会議について

二か月に一度、奇数月に開催されている運営推進会議は、ご入居者代表、ご家族代表、地域代表者、八戸市担当者、施設職員が一同に会し、情報交換をする会議です。

ABユニットは、「地域密着型特養」として八戸市が指導、助言を行う監督機関となっており、地域との連携や行政との連携が密に図られるユニットです。それぞれの立場から忌憚ない意見が交わされる場です。ご入居者の生活を中心に考え、更に地域に貢献、発信する施設を目指す特養として、大切な会議です。

昨年度は、ハピネスやくらの取り組みや、新しい施設に移行後のご入居者の生活の変化、新たな課題等をお伝えしました。地域行事や地域組織、地域ニーズを確認させて頂いたり、ご家族からは、「ハピネスやくららしい、独自の取組をしてほしい」「穏やかな老後、終末を迎えるための施設ではなく、高齢者の可能性を見出しながら積極的に生活参加できる施設にしてほしい」等のご意見をいただきました。更に防災については、有事の際、八戸市の体制等についての確認をする等、活発な意見交換が行われました。

「運営推進会議」の意義を踏まえ、施設の運営だけに留まらず、八戸市の介護福祉施設としての役割を意識しながら、運営していきたいと思えます。



運営推進会議

1. 現状分析

1Cユニットは当初ご入所者の平均介護度が4.9と全ユニットの中で最も重度であった。そのため初期のころは入院者も多く、誤嚥性肺炎や逆流性食道炎、胆のう炎で5～7月の間で3名入院されている。夏季～秋季は入院者はなかったものの、平成25年2月現在1名入院中である。現在は平均介護度4.7であり、生活の殆どに介助が必要な方が大部分である。

(食事：全介助者3名、一部介助者1名、経管栄養者3名)

(排泄：全介助者7名、一部介助者3名、フォーレ使用者5名)

(入浴：特浴者7名、個浴者3名)

職員数は開設当初から4名でのスタートであり、隣接ユニットや他職種の支援を受けながら運営している状況である。

そのような現状の中で、体調不良なく、事故なく、ご入居者の生活を安全なものとするために、

◎職員の介護知識・技術の補強

◎業務の手順の効率化・省力化

◎マンパワーの補強

この3つを軸として2013年度は進めていきたい。

2. 2013年度ユニット目標

ご入居者の安全な生活を確保する

3. 2013年度ユニット目標を達成するための決意表明、行動

○介助の質の向上を図る

日々の介護において、技術面・知識面で疑問・不安に思っていることを吸い上げ、それを解消するような学習会を、ユニットの実情に即した内容で行っていく。

○業務の効率化・省力化を図る

職員数が少ない現状にあるので、手法や設備で作業時間が短縮できるようであれば取り入れを進めていく。それによってできた時間を篤い介護ができるように充てる。

○マンパワーの補強

ただ待っていても人はこないなので、職員自ら周りにアンテナを張り、1Cユニットで働いてくれそうな人を日々探す。良さそうな人がいれば施設に紹介する。

○職員の資格取得

職員個人のライフプランもあるので強制はできないが、資格取得の意思があれば、先の勉強会のスケジュール内に取り込んでいく。

2013 ハピネスやくら事業計画

4. 2013 年度ユニット事業計画（詳細）

行事		ケア (食事、排泄、入浴など)	住環境	
			居室	リビング ダイニング
4月	小向様 BD 会(※)	食事 ○肺炎の危険性を減らすため、3食時の口腔ケアを行っていく。 入浴 ○特浴入浴者が多く、かつ拘縮・体動による危険がある方が多いので、安全に対応できるやり方を他職員に情報として発信していく。また、人員の確保ができれば、浴槽にゆっくり浸かって頂ける対応をとる。 ○個浴入浴者については隣接ユニットの支援を受けつつ行っていく。 排泄 ○本人の希望に沿って行う。 トイレ利用できる方については、維持していく。 ○フォーレの利用者が多いため、看護と連携して排尿の観察・異常時の報告を行う。	本人の好みや住環境を参考として、本人にとって落ちつけるような空間を作る。 定期的な清掃を行う。	『公共の空間』にふさわしいような設えを心がける。 定期的な清掃を行う。
5月	外出 (散歩 or 買い物)			
6月	林様 BD 会			
7月	佐々木氏・ 角沢氏 BD 会			
8月	田名部様・ 木野宮様 BD 会			
9月	敬老会 中里様 BD 会			
10月				
11月	柴田様 BD 会			
12月	クリスマス会			
1月	新年会 苅田様 BD 会			
2月	節分 後村様 BD 会			
3月	ひな祭り			
	(※)BD 会 =誕生会)			

2013 ハピネスやくら事業計画

5. 各立場とのチームワーク目標

フロアリーダー(サブ含む)	ユニットに入る他職員	家 族
・ユニット内での事故や出来事について、速やかな報告・相談を行う。	・疑問や不安を逐一出し合って話し合い、問題の解消を図っていく。	・書面による月1回の近況報告継続。 ・面会時は、自分の部屋でご家族と一緒に過ごして頂けるように配慮する。

6. 各種取り組みの現状と目標

	事故防止対策	口腔リハ	看取り	学習療法
現状	事故発生時は、当日中にカンファレンスを行い報告書を作成している。	現在対象者3名 ・柴田トク子様 ・佐々木キツ様 ・中里晴子様	現在対象者1名 ・林ハギ様	現在対象者2名 ・苺田カチ子様 ・中里晴子様
目標	カンファレンスで挙げた問題点・改善点を留意しながら仕事を行えるような環境を構築する。 (人員の確保・業務の省力化)	VE実施によるDrのアドバイスに従い実行し、日々の食事摂取状況の観察を継続する。	水分の摂取を嫌がる傾向にあるため、無理強いせず、摂りたい範囲で摂って頂く。身体的・精神的に苦痛のない介助を心がける。	2名とも拒否なく定期的に参加している。このまま継続し、本人の精神的変化を観察していく。

2013 ハピネスやくら事業計画

事業名	特別養護老人ホームハピネスやくら			
作成者	部署名	短期入所生活介護	役職名	ユニットリーダー
	氏名	田村 昌一		
年度目標 テーマ	ご利用者とご家族が安心して利用できる事業所作り			
<p>2012 年度から開設となった短期入所事業所で、徐々にケアマネージャーの方への知名度が高くなり、2月現在では安定した在籍者数と稼働率を獲得できるまでになりました。</p> <p>2013 年度は、「新しくてきれいなショートステイ」という知名度に「安心して利用できるショートステイ」という項目を加えて認識して頂けるように、ご利用者・ご家族・担当ケアマネージャーの方からの信頼関係を構築できるよう取り組みます。</p> <p>目標稼働率 96.7%</p> <p>1. ご利用者・家族・居宅介護支援事業所との関わりの強化</p> <p>ご家族からの相談に対する適切な対応・生活状況などの情報交換・利用状況の詳細な報告を実施し、「やくらに任せれば安心だ」と思って頂けるよう取り組みます。</p> <p>居宅支援事業所への関わりとして、新規利用者及びリピーターの利用者における利用状況の報告・いかなる時でも問い合わせなどの連絡に対応できる体制作り・定期的に事業所へ訪問し、情報交換を兼ねての営業活動を実施し、信頼関係を築くよう努めます。</p> <p>2. 情報収集の強化と担当職員への周知の徹底</p> <p>上記でも記載したように、ご家族や担当ケアマネージャーからの情報収集を強化し、可能な限り自宅での生活リズム及び環境に近づけたサービスを展開していきます。また、収集した情報を各職員へ周知を徹底させることにより、ご利用者が安心して利用でき、職員が安全なサービスを提供できる環境を整えます。</p> <p>開設当初から使用している書式等の改善を行い、円滑に無駄のない業務の遂行につながる取り組みを行います。</p> <p>3. ショートステイと特養の空床を円滑利用する営業活動と各施設部門との連携</p> <p>2012 年度は特養の空床利用を実施することにより、安定した稼働率の獲得につながった結果となりました。2013 年度は更に、居宅支援事業所への情報提供と営業活動を強化し、特養看護及び特養マネージャーと相談員との情報共有を行い、連携を徹底し円滑な空床利用へつなげていきます。</p>				

2013 ハピネスやくら事業計画

1Dユニット 名前 田村 昌一

1. 2012 年度 現状分析

2012 年度からスタートした短期入所生活介護事業所として、開設当初と比較し利用登録者数及びリピーターの増加、空所利用の導入により稼働率は安定したものになってきています。

しかし、業務及びサービス内容の面で分析すると、各業務のマニュアル作成がショートステイにおける一般的な業務内容を実施することで滞っている現状がある。業務を行っていく上で、体制やマニュアルといった様々な部分での不備が明らかになってきており、円滑な業務遂行や施設内での連携に改善が必要な点が浮き彫りとなった。また、ユニット職員間での連携や育成といった分野での強化ができていない現状もあり、改善が必要であると感じています。

『開設したばかりの綺麗な施設』は 2012 年度で終わりとなり、2013 年度からの安定したサービス提供をする為には、ショートステイ事業におけるユニットケアとしてのソフト面でのサービス強化が必須であると思います。

介護保険制度における短期入所生活介護事業所としての役割を認識し、在宅生活を支えることは勿論の事、更に生活の質を向上させるお手伝いができるという可能性があります。

2. 2013 年度ユニット目標

ご利用者と職員が安心して居られる環境作り

3. 2013 年度ユニット目標を達成するための決意表明、行動

ショートステイ事業のユニットとして、ご利用者及びご家族に安心して利用して頂ける体制を築く為の改善を実行します。

業務を円滑に行い安定したサービスを提供する為のマニュアルの作成及び改善を実施し、各ユニット職員がご利用者に対し、画一的な対応ができるようにする。また、在宅部門としての接遇の強化を継続し、ご利用者に限らず、ご本人に関わるご家族・ケアマネージャーなどの方へもハピネスやくらとしての適切な対応を実施できるように取り組みます。

サービスを提供するユニット職員の育成を重視し、介助を行う上での技術・知識の向上を目指し、定期的に行っている会議に勉強会などの育成の機会を設ける・部外研修への参加を促す。また、職員のメンタル面でのケアも重視し、個人面談の実施・助言を行い、各職員がチームの一員として働きやすい職場環境を築いていきます。

2013 ハピネスやくら事業計画

4. 2013 年度 ユニット事業計画（詳細）

行事		ケア (食事、排泄、入浴など)	住環境	
			居室	リビング ダイニング
4月	お花見	各職員がご利用者のADL状態を明確に把握した上で介助を行う。情報の共有、マニュアルの遂行、技術の向上により、安心して頂けるケアを提供する。 生活リズムや行動を観察し、ケアの方法を随時検討する。	『いつ入所しても綺麗な空間』を継続し提供する。 ご利用者のADL状態や認知能力を把握した上で、利用する部屋割りをし、事故を最小限に防ぐ対策を実施する。 ご自宅の設えを理解し、ご利用中に混乱なく快適に過ごして頂くよう支援する。	季節を感じて頂ける装飾や植物を設置する。 アロマセラピーの導入を継続し、香りの効果を用いた安らげる空間を設ける。
5月	ユニット懇親会			
6月	運動会			
7月	七夕			
8月	流しそうめん			
9月	櫛引八幡宮秋祭			
10月	ユニット懇親会			
11月	焼き芋会			
12月	クリスマス			
1月	ユニット新年会			
2月	節分			
3月	ひな祭り			

5. 各立場とのチームワーク目標

フロアリーダー	ユニットに入る他職員	家族
ユニット内で発生する課題・要望はユニット内だけで解決するのではなく、「報告・連絡・相談」を徹底しFLとの連携により包括的に解決に当たる。	メンタル面のケアを重視し、個人面談や意見交換の場を設け、働きやすい職場環境を築く。 スキルアップのOJTを行い、様々な場面で対応ができる自信につなげる。	新規契約及び面談時の適切な接遇・説明を行うことを継続すると共に、身体状態及び医療面での変化等の情報交換、利用状況の詳細な報告を行い、信頼関係を築く。

6. 各種取り組みの現状と目標

	事故防止対策	口腔ケア	看取り	学習療法
現状	事故発生後にカンファレンスを行い、原因分析・防止策の検討を行っている。	朝・昼・夕食後の口腔ケアを実施している。異常がある場合には、ご家族及びケアマネージャーへ報告している。	対象者なし。	対象者なし。
目標	事故の要因となる危険因子を減少させる為、ヒヤリハット対策の強化を行う。 他ユニットの事故報告及びヒヤリハットについて事例検討	食後の口腔ケアを継続する。また、口腔体操やマッサージの実施に取り組む。 異常のある場合にはご家族及びケアマネージャーへ対応。	看取りについての学習の場へ参加し、知識を深める。 在宅での看取りに短期入所が関わられるよう施設内で検討していく。	長期間利用者の学習療法への参加に着手し、ご家族の理解を頂ける説明を行い、導入に取り組む。短期利用者へも導入検討。



ショートステイでの集団体操

2013 ハピネスやくら事業計画

事業名	特別養護老人ホーム ハピネスやくら			
作成者	部署名	特養ホーム	役職名	2階フロアリーダー
	氏名	夏井 隆志		
年度目標 テーマ	ご入居者、ご家族様との信頼関係を築き、 充実した生活を支えていく			
<p>【現状分析】</p> <p>2012年3月30日、旧やくらから八幡地区の新築移転となり全室個室でトイレ、洗面台、チェスト、エアコンの設備が整った居室（家）へと引越しとなりました。 ご入居者、ご家族、職員、それぞれ不安と期待を抱きながら新しい生活を送っていく事となり、約1年が経過しようとしています。</p> <p>旧やくらの従来型から個室ユニット型へと変わり、ご入居者の生活スタイルに合わせる支援を実施していますが、個室になってからプライバシーの確保を優先し、ご家族から「居室のドアは開けておいて欲しい。」という要望が無い限りは居室のドアは閉めていただいています。職員もユニット経験が浅く、環境の変化に伴うご入居者の生活や行動上の小さな変化に気づかず、半年間は事故やヒヤリハットが多い状況でした。</p> <p>現在は、新しい施設での生活はご入居者もご家族も喜ばれ満足されている方や、ご入居者、ご家族向けに個室ユニット生活を理解して頂くため、十分な説明をするよう改善しています。</p> <p>【今年度の目標】</p> <p>今年度の目標を、「ご入居者、ご家族との信頼関係を築き、充実した生活を支えていく」として、ご入居者との信頼関係を構築し、ご入居者の意見を吸い上げ充実した生活がおくることができるよう常にご入居者視線、ご入居者の立場になり援助し、不満等には職員間の情報共有をしっかりと行い、分析を行って今後の対応方法を検討し、全職員が統一した援助ができる体制作りを行っていきます。ご家族との信頼関係を築く為に、ユニット懇親会や、面会時はご家族とのコミュニケーションを最優先として、ご家族にもご入居者の支援協力をお願い、ご家族の考えている事、何を必要と考えているのか？等も配慮し、他職種協働でご家族も巻き込んで、ご入居者の充実した生活を支えていきたいと考えます。</p> <p>又、生活相談員の業務のフォローやケアプランの作成を行い、ご入居者の生活の基盤を整え支援していきます。</p> <p>定期的にスタッフの個人面談を行い業務で困っている事等を吸い上げ、業務改善、健康面の配慮、精神面のケアを行っていきます。</p> <p>介護の質を上げるために、ひとり一人のレベルに合わせた教育を行ったり、ご入居者の気持ちを理解する為に、疑似体験を行います。</p> <p>ユニットケアの確立の為、24時間シートを完成させ「ご入居者を知り、個別ケアを確立</p>				

する」をめざしていきます。

○看取りケアについて

現在、施設全体で6名の方を看取りケアを行っています。2階フロアの看取り対応を行っている方は新田たか様、柳町寛様、鷹巣とめ様、松田登美様の4名。

ご家族から情報を十分に収集し、その方らしい看取り援助が行えるように支援していく、そのためには、看取りに関する知識を熟知しご家族、ご入居者、職員の不安や苦悩を取り除くような対応を行っています。

○口腔リハビリに関して

いつまでも安全においしく、自分の口から摂取する為に、日頃の摂食状態の観察を行い必要に応じて口腔リハビリを受診し未然に防げるリスクの回避を行い、根拠ある援助を行っています。

又、口腔リハビリを行い加算にも繋げていきたいと考えます。

○民主的活動の活発化に向け

25年1月にハピネスやくら自治会を立ち上げました。これから適宜開催し活動することによりご入居者のお考えや、施設に望むもの等を吸い上げ、私たちが気付いていない事は何なのか？何を望んでいるのか？を見つめ直しつつ生活に組み込んでいきます。

又、今年度は家族会の立ち上げを目標にする為、家族懇親会を各ユニットで行い家族会立ち上げに向けご家族の意見にも積極的に耳を傾けご入居者の生活に繋げていきます。

オンブズマンの導入により、サービスの質の向上、改善に取り組み施設全体の質の向上を目指していきます。

○学習療法

非薬物療法として脳の活性化を図り、楽しみの一つとして継続して行い、ご入居者の変化等に気付ける観察能力を学習療法スタッフは身に着ける場として意識して学習のお手伝いを行っています。

近隣地域向けに、「脳の健康体操」を行い脳の健康のために、認知機能低下予防につながるよう行って行きます。

○安全で楽しみのある生活のために

常にご入居者の立場で考え援助していかなくてはいけない立場にいる私たちは健常者の為、ご入居者のことを知るために、疑似体験を行いご入居者の気持ちになり何が必要なのか？必要な事に対して対応するとどうなるのか？等を考える「力」を身に着けていきます。リスクに対する気づき、意識、知識、対応方法を学ぶためKYT（危険予知訓

2013 ハピネスやくら事業計画

平成 24 年度の 2 階フロア稼働率（空床利用は含まない）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	計
日 数	1200	1240	1200	1240	1240	1200	1240	1200	1240	1240	12240
実 績	1145	1204	1164	1195	1177	1134	1228	1101	1196	1171	11715
稼働率	95.4	97.0	97.0	96.3	94.9	94.5	99.0	91.7	96.4	94.4	95.7

今年度の稼働率目標：96.7%

- ・稼働率達成のため、先ずは入院者を出さない。
- ・入院者を出さない為に日頃の気付きを多く持てる観察力を身に付けます。
- ・空床が出た場合には、空床利用をSS担当に情報を速やかに伝え、空床を埋めます。
- ・常に待機者（入居者予定者）を5人以上を確保しておきます。

○職員の質の向上、資格取得に向けた取り組み

職員の質の向上のために各ユニットやフロア単位で施設内研修や勉強会を開催し、「意識の向上・知識を増やす・技術の向上」目指していきます。

学ぶことにより自信にも繋がり、統一したケアを行い、それぞれの職員で目標をたてることで達成感にも繋がり、やりがいを持てるようにします。研修参加職員は研修後の報告会や、専門職への研修の依頼、各職員主催の勉強会を行う事で教える側も勉強にもなり学ぶ側も勉強になると考え、人前での発言の機会を多く持ち様々な場面での活躍も視野に入れていきたいと考えます。

資格取得に向けた取り組みとして、フロアリーダーが主となり、計画的に無理の無い様に資格取得に向けて専門的な知識を学んでいきます。

○コスト削減

オムツのコスト削減のために、ご入居者ひとり一人に合ったオムツを使用し、無駄な経費出費がないように尿測を行い適切なオムツの使用を排泄委員会と進めていきます。尿量測定は、季節や体質変化時、新規入居者等を対象に適宜行っていきます。これと同時に基本に沿った排泄介助が出来ることで尿モレの減少、ご入居者に不快な思いを与えない援助を目指していきます。

○ユニットケアについて

セミプライベートスペースを各ユニットで個性の出るように工夫し、他ユニットのご入居者と交流できたり、各ユニットで生活するご入居者の意見を取り入れ過ぎしやすい環境作りにも取り組んでいきたいと考えています。

生活感が感じられ、落ち着いた空間作りを目指していきます。

食事に関しては食べたい時間に食べたい量、食べたい場所の配慮と対応、入浴に関して個別ケアとして夜間入浴の対応、排泄に関してご入居者の排泄パターンを掴みオムツの無駄使い削減、羞恥心の配慮やユニット内に広がる匂いにも配慮し、第三者が見ても排泄交換中だと解らない工夫をしています。

24 時間シートを活用できていない為、早期の 24 時間シート作成を目指し、「ご入居者を知る」＝「個別ケアの確立」を目指し、充実した生活を支えていくため他職種協働で取り組んでいきます。



書道クラブ

1. 現状分析

- ・旧やくらから引越しをし、プライベートの空間ができた事によりご入居様が自分の意見を持ち自分のライフスタイルが出来てきている。又、おむつのみでの排泄だった御入居者様の方もトイレに行き排泄出来る様になっている。それに伴い、トイレに行きたいなど自分の意見をスタッフに伝えてくれる御入居者様もいる。
- ・引越ししてから1年を過ごし御入居者様からは毎日楽しく過ごしているとおっしゃっている反面今後は、新たなニーズ・不安な事・不満等出てくると思われるためそれらに気付いていかなければならないと思う。
- ・スタッフの気付きの不足・介護技術の不足もあり、尿路感染症・急性胆のう炎・熱発により入院された方がおりました。

2. 2013年度ユニット目標

- ・ストレスのないユニット作り
- ・アロマセラピーを用いた癒しの空間作り

3. 2013年度ユニット目標を達成するための決意表明、行動

- ・引越しから1年経過した事もあり引越し前と比較するとニーズが拡大してきていると考えられる。スタッフがニーズを吸い上げ対応していかなければストレスになってしまうと考えられる。ストレスのない生活を過ごしていただく為にもスタッフが気付きを多くしていく。
- ・認知症の方の理解をユニットスタッフが理解をし、統一した対応をしていく事で他の御入居様が気を使わなくてもいい環境を作っていく必要がある。
- ・御入居者様からやってみたい事を見付け希望に添える様対応していく。そのためにも御入居者様がスタッフに伝えやすい雰囲気を作っていく必要がある。
- ・落ち着いたユニット空間を作るためにアロマセラピーの効果を用いてゆったりと暮らせるユニットを作っていくことで御入居者様がストレスを感じさせずに過ごせる環境を作っていく。昨年度に引き続き季節を感じていただくために季節の花や野菜を見ていただくだけで季節を感じられる様にしていく。
- ・スタッフが落ち着きゆったりとした空間の中でケアしていく事で個別ケアや気付きを多くしていきたい。
- ・ご家族様との関係を築き上げる為、家族懇親会を行い信頼関係を構築していきます。

2013 ハピネスやくら事業計画

4. 2013 年度ユニット事業計画（詳細）

行事		ケア（食事、排泄、入浴など）	住環境	
			居室	リビング ダイニング
4月	花見 花植え	24 時間シートを活用し、御入居者様が主体の生活を送っていただける様援助する（変化があった際には見直しを行っていく） 食事…御本人の食べたい時間、自力で摂取していただける様な環境作り。介助が必要な方は誤嚥の無いよう本人のペースに合わせて介助を行う。 排泄…御本人の排泄パターンの把握と排便コントロールを行い、自然排便につなげていく。本人にパットの選択を行い本人に不快感を与えない様にする。 入浴…リラックス出来る様に入浴剤の使用をしていく。個々人に合った入浴方法の確立をし事故の無い様に行っていく。	・自宅で過ごしていた時の雰囲気 に近づけた居室作りを行っていく。 ・事故が無いよう 部屋の整理整頓を行っていく。一緒に出来る御入居者様がいらっしゃる場合には一緒に行っていく。	・ゆったりくつろげる様な所を作る。御入居者様の生活の場として安全・安心して暮らせる様に清潔を保つ様にしていく。 ・季節の花・野菜をバルコニーで栽培し天気の良い日はご入居様も一緒に水やりを出来るようにしていく。
5月	ドライブ			
6月	家族懇親会 おやつ作り			
7月	夏祭り			
8月	三社大祭			
9月	敬老会 バーベキュー			
10月	ドライブ			
11月	家族懇親会 焼き芋			
12月	クリスマス会 忘年会			
1月	新年会			
2月	節分			
3月	雛祭り			
その他	誕生者がいる月には食事時に誕生会を企画していく。			

5. 各立場とのチームワーク目標

フロアリーダー(サブ含む)	ユニットに入る他職員	家族
報告、連絡、相談を密に行い情報の共有をしていく。	御入居者を困惑させない様に統一したケアを徹底していく。 御入居者様個々の状態を把握出来る様個人の状態を記載したものを掲示しておく。 月1回のユニット会議の実施。	御家族からの情報収集だけでなく、こちらからも情報を提供していく。 面会に来て頂く回数を増やす。

6. 各種取り組みの現状と目標

	事故防止対策	口腔リハ	看取り	学習療法
現状	気づきが足りない 気づいていても対処が遅い リスクの予測ができていない	口腔リハ受診者5名 受診結果に合わせた食事やリハビリを行っている。	2階Aユニット看取り者 ・新田 たか様1名	学習療法実施者4名 学習療法を楽しみに 行っている。
目標	気づきを多くする 為に研修やスタッフ間での声掛けを 多く行っていく。	食事摂取できている方も長く経口摂取してくれるよう口腔ケア、健口体操を実施していく。 又、変化がある場合には 会議等で情報を共有し 口腔リハを行っていく。	御入居者の生活歴や 希望を本人や御家族 から情報収集し、その 人らしい最期を迎え られるように援助 する。	御入居者の状態に合 わせて学習療法が難 しい方には楽しめる 範囲での塗り絵など を実施していく。



ユニットでの入浴

1. 現状分析

ユニットケアになり約1年経過し、食事の際お盆からランチョンマットへ変更し、皆一斉の食事から個人に合わせ好きな時間に摂取して頂ける様にし、排泄もプライバシーに配慮し、各居室に専用の物品を揃え手ぶらで訪室し介助出来る様になり、周囲からは排泄介助をしていると気付かれな
い様になりました。が、人員不足もあり、環境整備が出来ていない状況です。

又、職員の気付きや介護技術不足からの苦情も頂いており、今後の課題となっております。

2. 2013年度ユニット目標

職員に「気付き」があり、安心して過ごせる場所（家）にする。

ご家族・ご入居者との信頼関係の構築。

3. 2013年度ユニット目標を達成するための決意表明、行動

・各室個室になり、ご入居者が個々に居室で過ごすようになりプライベートな時間が持てる様になった半面、ご家族とスタッフのコミュニケーションが取りにくくなった為、ご入居者の近況報告や行事等への参加を呼びかけたりと積極的に声を掛け、信頼関係を築いていく。又、各居室の環境整備を行う事も信頼関係に繋がって行く。

・24時間シートをユニット職員皆が理解し作成でき、活用していく事により個別ケアの充実に努め、ご入居者の生活が在宅に居た時と同じ様なリズムやペースに近づけ、過ごしやすい環境を作る。

ご入居者ひとり一人に合ったケアを行う為にリスクの把握・共有をし、勉強会を行い事故やヒヤリハットを防ぐ。又、ご入居者やご家族の立場になって考え接して行き、気付きが身に付く様に、危険予知トレーニングを行う。

2013 ハピネスやくら事業計画

4. 2013 年度ユニット事業計画（詳細）

行事		ケア（食事、排泄、入浴など）	住環境	
			居室	リビング ダイニング
4 月	花見、苗植え	24 時間シートを定期的に見直し、個別ケアの充足に努める。 <食事>在宅時と変わらぬ時間帯に食事を摂って頂く。喫食 2 時間以内に摂取できない方の為に捕食を準備する。 <排泄>プライバシーが保持できる様、排泄介助と周囲に気付かれない様に行う。自力・一部介助にてトイレ利用されている方は、継続して行ける様残存機能を維持していく。排泄臭をリビング・ダイニングに残さない。 <入浴>入浴剤等を使用し、リラックスして頂ける工夫を行う。	・個性を出し、ご家族の方にも協力して頂き、その方らしい居室を作っていく。 ・掃除を徹底し、整理整頓する。	<リビング> ご入居者の方たちのコミュニケーションの場になる様環境整備を常に行う。 レクリエーションや体操等を行う。 <ダイニング> 清潔であり、落ち着いて食事が摂れるよう、環境整備を行う。
5 月	おやつ作り 家族懇親会			
6 月	ドライブ ショッピング			
7 月	夏祭り			
8 月	三社大祭			
9 月	敬老会 バーベキュー			
10 月	紅葉ドライブ			
11 月	焼き芋 家族懇親会			
12 月	クリスマス会 忘年会			
1 月	新年会			
2 月	節分			
3 月	ひな祭り			
その他	誕生日の昼食の時にその都度 祝う			

5. 各立場とのチームワーク目標

フロアリーダー(サブ含む)	ユニットに入る他職員	御家族
「報告、連絡、相談」を密に行って行き、職員、ご入居者の情報を共有し助言を仰ぐ。	情報の共有、意見交換等や勉強会を行い、協力体制を作る。	居担を中心に積極的に関わりを持ち、コミュニケーションを図り信頼関係を構築する。

6. 各種取り組みの現状と目標

	事故対策	口腔リハ	看取り	学習療法
現状	気が足りなく、リスクの把握不足、介護技術不足からの事故が多い。	口腔リハビリ受診者者3名おり、食事時の姿勢やその方に合ったトロミ濃度での水分提供を行っている。	現在看取り対象者なし。	現在3名 ・井上 はなゑ様 ・大石 源蔵様 ・十文字 正男様
目標	ご入居者ひとり一人のリスクを把握し、ケアを行う。勉強会を行い介護技術の向上をする。声掛けの徹底をし、チームワークのとれたケアを行う。	いつまでも口腔から食事が摂取できる様に、変化に気付き、見逃さない。口腔ケアの徹底。	御家族へ十分な説明を行うと共に、職員も看取りについて勉強し、理解する。定期的に家族へ状態報告をし、最期を悔いなく過ごせる様支援する。	楽しんで参加して頂き、認知症の方だけでなく、予防の効果もある事をご家族に理解して頂き、参加者を増やして行きたい。



南部一之宮 櫛引八幡宮

1. 現状分析

新しい施設に移り、ユニットでの生活も一年が経ちました。最初はなかなかユニットのサイクルに慣れなかったご入居者も、今では、大分落ち着きゆったりとした時間を過ごしています。慣れなかったのは、スタッフも同様で、そういった行動が、ご入居者の心理面に、影響を与えていたと思われれます。毎日のように、帰宅願望が聞かれていたご入居者も、リビングという共有スペースでのご入居者達とのふれあいが増えた事によって、帰宅願望も軽減され、今では、帰宅願望が聞かれる、他のご入居者の話に耳を傾ける様子も見られています。

Cユニットでは、これまで5名の方が、頻脈性心房細動、皮膚疾患、熱発とSPO2低下、ラクナ梗塞、乏尿と浮腫による検査のため、入院されました。環境に慣れなかった事や、スタッフ間の情報共有不足、そして介護技術不足等で、転落や転倒の事故も多くありましたが、現在は減少しています。やっと、ユニットケアに、慣れて来たという感じで、まだまだ個々の細かいケアは出来ていないのが現状です。ご家族との交流も最初はなかなか築きにくく、この頃やっと、ご家族の方から、声を掛けて貰えるようになりました。

2. 2013年度ユニット目標

- ・ご入居者、ご家族との信頼関係の構築
- ・ゆとりある個別ケアの実施と介護技術の向上

3. 2013年度ユニット目標を達成するための決意表明、行動

- ・ご入居者はもちろん家族様と、情報収集、情報交換をしながら、連絡を取り合い、特にご家族には、安心して任せられるという信頼が築けるよう努めていきます。
- ・ご入居者一人一人に合わせたケアが出来るよう、24時間シートを活用しながらゆとりある対応が出来るよう努めていきます。慌ただしく対応せず、ゆったりとした時間を作っていきます。
- ・一人一人のご入居者とのコミュニケーションを大切に、目や耳を傾けながら寄り添ったケアに努めていきます。
- ・技術不足による、ご入居者へのリスクを軽減するため、介護技術の育成に努めます。そして、通院、入院等の軽減に繋げていきます。

2013 ハピネスやくら事業計画

4. 2013 年度ユニット事業計画（詳細）

行 事		ケア（食事、排泄、入浴など）	住環境	
			居 室	リビング ダイニング
4 月	花植え	<p>〈食事〉現在一部介助をしている方には、容器や自助具等の活用をして、自力で摂取出来るよう支援していきたい。</p> <p>〈排泄〉現在おむつを使用している方には、生活習慣や排泄パターンを把握し、トイレ利用が出来るよう対応していきたい。</p> <p>〈入浴〉ゆったりとした雰囲気、満足できるよう、夜間入浴を増やし夜間の心地よい入眠に繋げていきたい。</p> <p>〈口腔ケア〉食後の口腔ケアをしっかりしていく。特に経管者は誤嚥性肺炎防止のためにまめなケアを実施していきたい。</p>	<p>自宅と変わらないような雰囲気を感じる事が出来るような、環境作りを、家族様に協力してもらい作ってきたい。（筆筒・テレビ・CD・ラジオ・写真・絵・花等）</p>	<p>ベランダには、季節を感じて頂ける、野菜を並べて水やりをしながら、成長を楽しみにして頂く。</p> <p>リビングや窓にはグリーンやお花を置き、和んで頂く。</p> <p>季節を取り入れた音楽を流し、一緒に歌えるような環境を作ってきたい。</p>
5 月	田植え			
6 月	家族懇親会 おやつ作り			
7 月	夏祭り			
8 月	三社大祭			
9 月	敬老会			
10 月	ドライブ ショッピング			
11 月	家族懇親会 収穫祭			
12 月	クリスマス会 忘年会・餅つき			
1 月	新年会			
2 月	節分			
3 月	雛祭り写真撮影			

* 誕生会は、行事と一緒に行う。

5. 各立場とのチームワーク目標

フロアリーダー(サブ含む)	ユニットに入る他職員	家族
報告、連絡は密にし、変化や問題点等に素早く対応出来るよう相談をしていく。	ご入居者個々の身体面や精神面の情報の共有をしていく。 お互いの情報を交換していく。 月1回のユニット会議の実施。	変化等に対して、月1回の近況報告だけではなく、まめな連絡をとり、信頼関係を築いていく。 家族様の要望に応えるよう意見交換をしていく。

6. 各種取り組みの現状と目標

	事故防止対策	口腔リハ	看取り	学習療法
現状	・転落・転倒・流動中のMT自己抜去 ・内出血痕等がありました	・木村ひよ様（経管者） 昼食時経口摂取中 ・市川 ユミ様 容器等（スプーン、小鉢）の変更にて自力摂取中	・松田 登美様 ・柳町 實様 現在 2 名 看取り 対応中	・木村 ひよ様 ・松田 登美様 現在 2 名 参加 （松田様、休学中）
目標	気づき（ヒヤリ・ハット）を増やし、事故防止に繋げていきたい。 その日の一人一人の状態を把握する、そしてその情報を共有しながら個々の介護技術の向上に努めていきます。	むせ込み等がある方を含め、経管者の方にも受診を勧め、誤嚥性肺炎を防ぐと共に、通院、入院の減少につなげていきます。	看取りに対する理解を深めると共に入居者様の生活歴や希望を聞き、その人らしい最期を迎えられるように援助します。	認知症の家族様に理解してもらえような説明をし、ご入居者にも、楽しく参加して貰えるよう努めます。



愛用の品に囲まれて

1. 現状分析

- ・ユニットという新しい生活場所になり、プライバシーの確保が出来、個々の生活スタイルも徐々に確立されてきている。1日のスタイルは個々に違いそれぞれの生活に合わせたケアも徐々に出来てきている。排泄パターンもおむつ対応者が多くみられていた以前に比べ、個室のトイレ利用により残存機能を活かせADLの維持向上に繋がっている。又、24時間シートを活かし、個々のパターンに合わせた排泄介助も行いご入居者に負担のない生活を送って頂いている。(現在のおむつ対応者2名。但し、下肢筋力低下のご入居者体調考慮しベット上にて行っている。トイレ利用者6名)
- 業務内容は、流れ作業となっている所もあり、ご入居者との交流を全員で図るという余暇等が無い状況でもある。
- ・学習療法・フットケア・エアロビクス等の余暇の実施により、他ユニット者との交流や楽しみも増えたことで笑顔みられている。
- ・今年度の入院は2名あり、食欲低下により体力低下、熱発した事により入院となる。1名は体力戻り帰居したが、1名は入退院の繰り返しそのまま退居となっている。
- 又、3名の新入居者様が加わった。
- ・事故報告内容では、車椅子からのずり落ち・座り込み、内出血、打撲跡等の報告がある。いずれも、新入居者が多く情報不足、意識・知識不足が原因と考えられる。

2. 2013年度ユニット目標

- ・ご入居者、ご家族との信頼関係の確立(苦情のない信頼関係)
- ・安心した生活を送って頂け環境作り、体調管理に努める(早期発見、対応)
- ・個別ケアに努める(ご入居者に耳を傾ける)

3. 2013年度ユニット目標を達成するための決意表明、行動

- ・居室担当者は特にご入居者との信頼関係を保つため、又不安のない生活を送って頂く為に日々の声掛け・関わりを持つ事。そこから戸惑い不安解消に繋がり、そして本音に気づき個々のニーズに対応したケアを実現していきます。
- ・24時間シート活用し、1人1人の習慣、本音を引き出せる信頼関係に努め小さなささやき、ご家族様との情報収集、交換に努めたいです。
- 引続き、個々のADL・QOLの理解、残存機能活用を行い、安心できるケアに配慮していきます。
- ・職員間での共有も少しの情報も見逃すことなく「報告・連絡・相談」に努め、要望を会話の中から、引き出せる職員の育成に努め、介護技術向上に努めて行きます。
- ・余暇の楽しみとして、ご入居者と職員と一緒に作成できる個々の興味ある又は出来る作品作りを勧めていきたい。
- ・日々の体調管理を行い、看護と連携し早期対応していきます。
- ・予測を常に考え、次ぎの行動を行なっていきます。

2013 ハピネスやくら事業計画

4. 2013 年度ユニット事業計画（詳細）

行 事		ケ ア (食事、排泄、入浴など)	住環境	
			居 室	リビング ダイニング
4月	野菜栽培	<p>・個々の生活リズム、好み等を把握し本人の望むケアを提供していく。</p> <p>【食事】 口腔リハ実施を行い、個々に合った食事形態、リハビリにて嚥下能力向上を図っていく。</p> <p>【排泄】 尿測を実施し、排泄パターンを把握し個々に添った援助を行う。</p> <p>【入浴】 温度・時間、物品等本人の好みに合わせたケアを行う。</p>	<p>・整理整頓をし、必要な物品はご家族様と相談し、過ごしやすいお部屋作りをしていく。</p> <p>・掃除の徹底</p> <p>・事故の無い動きやすい、使い易い部屋作りをご入居者と一緒に作っていきたいです。</p>	<p>・掃除の徹底</p> <p>・さりげない季節感ある装飾を行う (花・草木・行事に合った飾り付け)</p> <p>・毎週日曜日、喫茶コーナーを設け好きな時間に利用して頂く。</p> <p>・行事等にバイキング方式又は選択肢を取り入れ、自分で選ぶ楽しさを味わって頂く。</p> <p>・誕生会のご入居者の誕生月の午後にお祝い行事として行っていく。</p>
5月	お花見 家族懇親会			
6月	マリエント水族館見学			
7月	七夕飾り、夏祭り			
8月	三社大祭見学			
9月	収穫祭、敬老会			
10月	居酒屋 紅葉ドライブ			
11月	おやつ作り 家族懇親会			
12月	忘年会・餅つき クリスマス会			
1月	書き初め、新年会			
2月	節分、映画鑑賞			
3月	雛祭り、居酒屋			

5. 各立場とのチームワーク目標

フロアリーダー(サブ含む)	ユニットに入る他職員	家族
<p>職員の変化、体調等への気付きと対応が早期に出来るようにする。</p> <p>問題点は効率よく対応し、目標達成に向けて、「報告・連絡・相談」情報共有に努める。</p>	<p>基本となる各マニュアルの周知、知識向上に向けて勉強すると共にユニットケアに向けて意見の出し合いをする。</p> <p>ケアに不安のない職場作りを協力し合う。</p> <p>介護技術向上に努めたい。</p>	<p>積極的に関わりを持ち信頼関係を築く。</p> <p>ご入居者の暮らしの変化・希望等について、話し合い協力し合っていく。特に各居担は日々の生活の把握をし、ご家族へ報告すると共に協力して頂き安心できる暮らしの提供をして行く。</p>

6. 各種取り組みの現状と目標

	事故防止対策	口腔リハ	看取り	学習療法
現状	今年度の事故は、24件となっており、新規入居者の情報不足からの予測不足、又ご入居者のADL低下の予測不足からの事故等予測できる行動知識認識の観察能力の低さが原因とも考えられる。又、気づき不足も原因。	月1回の口腔リハにて個々に合った食事形態又、リハビリの指導にて正しいケアの提供が出来る。毎食後の口腔ケアの継続も出来る。定期的な職員への勉強会の参加。 (2D・・級久保ソメ様、大村リエ様、鷹巣とめ様、関野タネ様、小林敏子様)	5名の方の看取りとなっている。(千葉一様・松田登美様・林ハギ様・鷹巣とめ様・柳町寛様) (2D・・鷹巣とめ様)	10名の参加 (2D・・級久保ソメ様、嘉瀬一夫様、上村ヤエ様) 参加したことで、ご家族がご本人の変化にととても喜ばれている。又参加後の他ご入居者との会話も楽しみにされている。
目標	新規入居者様の情報の共有を図り、職員間で予測を想定した対応、観察を行いケアして行く。又、全ご入居者の毎日の観察を行う事で、体調の変化等に早期対応できるようにする。毎日観察することで少しの気づきが出る様になる。	嚥下状況により、個々に合った食事形態、摂取形態の把握をし、食欲増進、食欲意欲向上に繋げ美味しく召し上がって頂く。食後の口腔ケアの継続。 定期的な職員への勉強会参加にて個別ケアに反映していく。	ご家族に正しく理解して頂き日々の状態観察の看護との連携、対応の継続。 職員も同様に看取りについて、正しく理解をし日々の観察、対応を敏速に行えるようにする。	ご入居者の楽しみの1つとして行って行く。週3回の実施となっているが、個々の希望、体調等に配慮し状態に合わせた対応も視野にいれて、楽しみながら行って頂く。

2013 ハピネスやくら事業計画

事業名	特別養護老人ホーム ハピネスやくら			
作成者	部署名	医療サービス部門	役職名	医療マネージャー
	氏名	中里 明子		
年度目標 テーマ	ご入居者の暮らし・健康生活を支える看護援助			
<p>2013 年施設長方針をうけ、介護施設の看護職、生活看護として高齢者の日々の暮らしにおける健康的生活を支え、そしてその生活の場で過ごした最終の自然な老いをゆっくり歩めるように、介護職や他専門職と共に環境を整え支援していく事を目指して事業計画を立案いたします。</p> <p>＝現状分析＝</p> <p>2012 年は生活の場に係わる看護・生活ニーズを優先した看護としてスタートしました。健康状態の維持や、悪化防止の為に生活管理を行うことが看護の在り方でしたが、ご入居者の暮らしが一転、従来型特養（6 人部屋）からユニット型特養（個室）に変わったことによる環境の変化、嘱託医の変更に伴う方向性の理解と共有に時間を費やしたこと、看護職員の医療の専門職としての役割と働きについても課題が残りました。</p> <p>予防・異常・急変時・救命時における嘱託医への連絡について早急に対応できましたが、軽度のうちに入院加療し、治癒を目的とするケースが多く、入院数 0 という日は 1 日のみでした。</p> <p>感染症発症に関しては、嘱託医との連携や専門医への早急な診察対応の遅れにより蔓延させてしまい、ご入居者の生活にも影響を及ぼしたこと、又多大な経費発生に至ってしまいました。</p> <p>専門職として我々が介護施設で求められる事は、ご入居者の健康生活を支える理論的感性を發揮した援助であると言う事、そして自分たちの立ち位置をしっかりとる事、自分達にも厳しくしていくことが必要と思います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、生活ニーズ優先の援助 2、予防を中心とした援助 3、医療的対応の必要な高齢者の援助 4、緊急時の対応 5、生活の延長線上としての死の看取り <p>指導の困難さもあるが、他職種協働・連携のもと介護職員の医療知識向上（必要な知識・技術の周知徹底）を支援し異常や早期発見又気づきにつなぐことができるようにしていきたいと考えます。</p>				

1、健康管理

- ・介護職員との協力にて健康管理に努めます。
- ・病状の悪化や新たな疾患の早期発見・対処への援助をしていきます
- ・感染症を含む新たな疾患を発症しない予防的援助をしていきます
- ・介護職員の医療知識向上を支援し、予測できるリスクに対し気づきができるように指導していきます。
- ・健康診断（70名在籍者全員対象） 年一回実施（2013年4月～6月にかけ）

2、医療行為の指導と連携

- ・指導看護師による指導は継続で行い、混乱や不安を拡大させないよう教育を続け、安全に行える環境作りをし医療行為支援が出来るよう介護職と協働していきます。

3、嘱託医との連携

内科嘱託医

- ・医療提供の必要性を判断する
- ・ご入居者の状態やニーズを的確に医師に伝え、判断の材料を提供する。
- ・医師に対して、ご入居者の状況に関して追加的に報告を行い、適切に支援を得、早応に施設内加療を依頼し、病院受診・入院を減らしていく
- ・看取りケアをご希望するまた、迎えられた方に対してその方らしい生活を支援する
さくら病院（青木 Dr）
- ・認知症・精神疾患に対しての療養指導を受けていく

4、医療機関との連携

- ・健康障害の危険性や障害が発生した場合は、的確に医療が受けられるよう率先して医療機関（協力病院）へ連絡を行います。
- ・病院側と信頼関係を作りスムーズな対応が出来るように努めます。
- ・受診が必要な場合は、早期に治療が受けられるように、迅速な対応に努めます。
- ・入院後の連絡を密にとり、家族と協議して早期退院へ向け努力します。
- ・入院先の医療連携室との連携を密にとり情報共有します。

5、介護職員・生活看護サービスの連携

ご入居者の生活を見ていく上での看護の役割は「健康管理」と「予防」。そのためには、生活において活動や日常を知り、その方の正常を知る事であり、普段との違い、サインに気づきやすい。その為には24時間シートの活用、で出来るだけ悪化・低下することなく、その方の生活が送れるための観察が出来、介護職員との連携・安心感につながります。

- ・お互いの業務内容を知り、尊重し業務を遂行します。
- ・介護職員の気づきを助ける為のご入居者の健康状態について必要な知識・技術を指導し、周知徹底をしていきます。(階級別の指導など)
- ・記録の一元化、システムの構築による情報共有をしていきます
- ・マニュアルの作成

6、口腔リハビリへの取り組み

- ・口腔リハビリが導入されたことに対し、感染、肺炎予防は？食事をおいしく食べれる？その方にあったケア方法を介護職員は食事の安全や口腔機能、食事への意識を高めることが出来ました。しかし、専門職が中心となっていた為、介護職員参加の不十分な点が出てしまいました。今年度は現場が（介護職員）中心となり専門職はサポート側に回り援助・実施して行きます。

口腔機能管理体制加算

- ・月一回のささき歯科医院院長の指導のもと実施

◎看護・介護職員の口腔ケアに関わる技術向上により、ご入居者の口腔衛生に努め、食事の質の向上を協働で取り組みます。

口腔機能維持加算（Ⅰ） 2名 経口移行加算 2名

- ・月一回の日本歯科大学付属病院の往診のもと実施⇒指導加算継続

7、看取り介護支援体制

現在、看取り介護を行っている方は7名となっています。2012年度は施設での看取りがユニット4月に1名となっており加算算定、12月に看取り介護となっていた方は地域密着型の看護体制が整っていなかった為、算定には至りませんでした。

- ・単なる延命の為の医療行為よりも、職員や家族の関わりでご入居者が最期までその人らしい生活を継続・全うできることが大切であり、日々の暮らしの継続・充実が大切です。看護職員は、ご入居者とその家族及び介護職員への手段的・情緒的支援を強化していきます。
- ・1月から新規ご入居者に対し、看取りケアに関する意向確認をスタートしています。
- ・健康状態のアセスメントを行い、ご本人・ご家族への意向確認を早い時期からの相談を始めます。
- ・各部署共通理解のもと、安心して支援できるよう、看取りについての研修を定期的実施していきます。
- ・家族への看取り介護についての説明を実施していきます。

8、看護職員配置計画とシフト管理方法

- ・ 5名の看護体制にてシフト管理となる
(正看護師3名 准看護師2名うち1名リハビリ兼務)
- ・ 守備範囲：担当ユニット固定とする
 - ・ ユニット担当介護職員と普段からご入居者の情報共有
 - ・ 記録の一元化による情報共有の強化
 - ・ 直接的なアドバイスや指導・助言を行っていきます
- ・ オンコール体制により公休前日、日勤者を待機とします。

9、感染の発症予防と対策

- ・ 2012年度は感染症発症拡大により、ご入居者の生活への影響や多大な経費発生となつてしまいました。施設運営をも脅かすその重大性を職員に認識してもらい最大限の努力をもって感染防止に努めるよう職員への徹底した教育をしていきます。
- ・ 感染予防委員会中心に活動をする
- ・ 感染に対する知識（予防・発生時の対応）の習得と日常業務における実践
- ・ 自身の健康管理（感染源・媒介者にならない事）
- ・ 各ユニットごとの管理のもと、責任をもって職員指導をする

10、褥瘡予防と対策

目標・・褥瘡「ゼロ」を目指します

- 1、ハイリスク者の把握・・・「褥瘡リスクアセスメント・計画記録」及び「ブレーデンスケール」により褥瘡予防対策担当者で評価を行う
- 2、ハイリスク者に対する対策をする・・・ハイリスク者と判定された御入居者に対し褥瘡予防の為のケアを立案し実施する（看護師・栄養士・PT・介護職員の共同）
- 3、褥瘡治療の必要性がある場合は、褥瘡予防委員会において発生の原因と早期治療へ対策を検討する
- 4、全身の観察をしながら日常ケアの充実で予防に努める

11、医療機器・材料の整備

- ・ 経管栄養・吸引器・皮膚トラブルの方々に対し、ご家族に身体状況を理解して頂き、必要な材料を整備します。

12、その他

- ・ 法人ファミリー看護職員の会「向日葵の会」開催と、青森3施設の情報共有を密にし、特養看護師業務の標準化を目指していきます。

2013 ハピネスやくら事業計画

事業名	特別養護老人ホーム ハピネスやくら			
作成者	部署名	医療サービス部門	役職名	機能訓練指導員
	氏名	成田 沙和美		
年度目標 テーマ	生活の充実と参加			
<p>2013 年度は、ご入居者の残存能力や機能の維持を行いながら、体操等の集団活動を通して、行事以外でのご入居者と交流を持てるような参加の機会を増やし、生活の充実を図る事を目標に、以下に機能訓練の事業計画を立案致します。</p> <p>1. 個別機能訓練計画</p> <p>個人個人の生活パターンの把握、残存能力の適切な評価・確認を定期的に行い、より個別性を重視した機能訓練計画の立案・実施を行っていきます。また、ご入居者同士の交流の機会を設ける一環として、集団体操の実施・指導や余暇活動の充実に関しても、生活援助員と一緒に推進していききたいと思います。</p> <p>地域密着型の個別機能訓練に関しては、担当の看護職員と協力し必要に応じて個別の機能訓練計画書を作成し評価を行っていきます。リハビリ専門職として、カンファレンスやユニット会議などでは、分かりやすい説明を行い、ご入居者に合ったポジショニング等を生活援助員に指導していきます。</p> <p>2. 福祉用具の導入計画</p> <p>ご入居者の生活の質の向上や事故防止、加えて、職員の腰痛予防などのために、スライドボードや介助バー、ご入居者の身体機能に適合させやすいモジュラー型車椅子、車椅子用クッション等の導入を進めていきます。また、ご入居者の重度化に伴い、リクライニング車椅子等の不足が見られるため、適宜導入を進め、ご入居者の生活を援助していきます。</p> <p>現在、使用している車椅子やベッド、ベッドサイドレールの劣化が著明に見られています。昨年度も車椅子の修理、廃棄を行っています。また、ベッドマットもへたりなどが見られ、褥瘡予防マットの数も不十分です。物理的な要因からの事故、感染の防止や褥瘡ゼロを目指し、定期的に福祉用具の確認や修理の依頼などを行っていきます。</p> <p>3. 個人用車椅子の導入推進計画</p> <p>2012 年度は、ご入居者個人に合った車椅子を作成するために、御家族の協力や近隣の身体障害者認定医に協力を頂き、身体障害者手帳の申請を経て身体障害者手帳を利用して 2 名の方がオーダーメイドの車椅子を作成しています。また、車椅子の個人購入を行</p>				

い、ご入居者の安全な移乗、適切で快適な座位保持を取ることで離床時間の拡大に繋が
り、ご入居者・家族・職員からも喜ばれています。

2013 年度も、必要性のある方に関しては、引き続き身体障害者手帳を利用しての車椅子
の作成や個人購入を進めていきたいと思いをします。

4. 口腔リハビリへの取組み

2012 年度は、口腔リハビリが導入された事で、ご入居者の食事の安全や介護職員の口
腔機能、食事への意識を高めることが出来たと思いをします。また、胃瘻から経口摂取へ移
行出来るようになったケースもありました。しかし、専門職種のみが中心となり、生
活援助員の参加が不十分となってしまいました。2013 年度は、生活援助員を中心とし、
専門職種としてサポートするように関わり、必要に応じて口腔リハビリに関係した勉強
会の企画・実施を行っていきます。また、スクリーニングテストも理学療法士だけでな
く、他専門職種も行える様に指導していきます。

5. 学習療法への取組み

研修スタッフとして、ご入居者の認知機能の低下・予防に努め、身体機能等にどのよ
うな変化があるか、専門職種として評価し関わっていきます。

6. 職員への勉強会計画

2013 年度は、ハピネスやくらに初めて機能訓練指導員が配置された事もあり、職員に
対して、随時勉強会等を行ってきました。今後も、職員のスキルアップや基礎知識の復
習の機会を設けるために勉強会を開催していきたいと思いをします。また、職員の腰痛軽減
等のため、介助方法等の確認を行っていきます。

7. 研修参加計画

知識、技能を高めご入居者の生活の質が向上するように、情報収集を行い研修への参
加を行っていきます。また、機能訓練の質も向上するような研修にも参加していきま
す。

8. その他

法人内に理学療法士が働いているため今まで行えなかった連携を図り、機能訓練部門
の書類の整理、必要に応じて統一等を行い、交流を持つ機会を図っていきます。

2013 ハピネスやくら事業計画

事業名	特別養護老人ホーム ハピネスやくら			
作成者	部署名	センターオフィス（事務）	役職名	マネージャー
	氏名	田中 理恵子		
年度目標 テーマ	出会いから学びへ そして成長すること ～フロントのプロとして～			
<p>昨年度現やくらへの移転を機に、又センターオフィスとしての機能を充実させる一つとして事務窓口業務を通年対応にしました。ご家族の面会、来客、電話件数とも予想通りに増えましたがご不便をおかけすることがなくなり、面会時にカフェを御利用される姿も多くなり賑やかになって参りました。今年度もお客様を気持ちよく迎えらるる事務でありたいと思います。</p> <p>(1) 事務全般 センターオフィスとしての役割</p> <p>①フロント業務心得</p> <p>施設の第一印象、入り口はフロントから。それは笑顔であったり、声であったりしますが明るく元気に正しい挨拶ができる基本を身につけ、施設の評価に即時に問われる部門であることの自覚を持ちます。姿勢を正し積極的声掛け、特に言葉使いに於いては依頼系を始め相手の方の人権、人格を尊重し失礼の無いよう配慮します。</p> <p>フロントには季節感を持たせた装飾を施し目で楽しんで頂きます。</p> <p>また初めて面会に来られた方にE Vの利用の仕方、ユニットの説明をしながらお部屋までご案内します。施設入所申込、相談について飛込みで来訪される方に対し、待たせることなく担当に繋ぐように連携を図ることの他、簡単な見学に対応できるようにします。</p> <p>②カフェ・ショップの充足</p> <p>利用される方が増えましたがほとんどがご家族、ショートステイご利用者なので一般の方に利用していただけるよう看板を設置し、入りやすさやメニューを工夫します。ショップについてもハピネスはちのへ商品を置いてもらい充実してきましたが、ご入居者の生活必需品について品数、種類を増やします。</p> <p>③事務業務の役割</p> <p>ご入居者に心地よく楽しく安心してお過ごしいただけるように介護職員、看護職員のサポートをします。他職種職員間への連絡、電話の取次ぎを始め物品の購入・在庫管理等細部に渡ること、主流であるご入居者援助が円滑に、支障なく行えるように支えます。</p>				

④職員の質の向上

常に他者から学ばせていただくという謙虚な気持ちと介護保険制度・医療保険等直面する一般常識を広く習得します。またご入居者との日常会話に役立てられるような情報・社会・芸能ニュースを収集し自分の知識に取り込む向上心を持ちます。

(2) 会計

①一般会計処理

法人本部会計担当の指導をいただき、日々の伝票処理、月次報告、業者支払、小口現金管理、立替等適正な処理をします。特に振替伝票については発生日の処理に遅れることが多いため当日処理まで持っていくように努めます。

②介護報酬について

国保連・利用料金請求担当者に協力し間違いのない未収金管理ができるようにします。利用料徴収については口座振替 100%になるように呼びかけとりこぼしが無いようにします。

③予算管理

予算作成には実績に倣い、執行には無駄の無いように努めます。

経費について社会資源を視野に入れ節電、節減に努めます。業者の選定にあたり、地域との連携、協力を仰ぎ育てていただきたいことから地域業者との関係を構築していきます。

④担当者の資質向上

研修会に参加する等技術、情報の習得に努めます。

(3) 御利用者管理

①利用料管理

ご入居者から頂戴する料金は「間違いの無いこと」を第一に立替金、利用料金の請求を行います。請求に際しては御家族がわかり易く納得いただけるよう文章に配慮します。

②証書管理

昨年度より管理費をいただいていませんが証書等のお預り、お引渡時について確認書の作成はもとより、原本の管理・情報の保護を守ります。

(4) 労務

①入退職に関わる事

職員の生活基盤の安寧を図るため就業規則に則り速やかな手続きを行います。税金、社会保険等本人の損失になることの無いよう情報を提供します。

②職場環境・健康管理に関する事

安衛法上衛生管理者を設置、月1回の衛生委員会を実施していますが職員の声を吸収し快適で安全な職場環境を作り、心と体の健康に寄与します。法定健診の実施の他、職員のクラブ活動の推進、交流会等勧めていきます。

当初より継続している腰痛予防ラジオ体操は365日事務からの放送で行なっています。

(5) 環境整備

ご入居者、来訪者の方が気持ち良い空間を感じられるように清潔に努めます。

施設内外、正門脇のバス停の清掃、隣接市道、国道ご近所に目を配ります。また新しい環境を維持するように職員に呼びかけます。

(6) 当直

夜間におけるご入居者の安全を確保すること、緊急時・災害時・大雪時のスムーズな対応他、当直時の電話、来客対応について日中同様の意識づけをします。

昨年度11月より専門当直者の他に正職員5名が当直要員となったため、災害時のマニュアルの検証を徹底します。

(7) 学習療法

一昨年度後半より導入準備を進め、昨年度4月、5月で体制を整え6月15日から始めた学習療法は3月で9ヶ月を経過しました。3月2日には南部地区学びの会に於いて実践発表の場をいただくなど安定して参りました。1ヶ月に1度の月次検討会、合わせて3ヶ月に1度学習療法委員会の実施は確実にスタッフが力をつけてきたことを物語っています。「やる」ことを継続するのではなく、更なる成長をめざし職員全員がスタッフとなる事を目標に新任研修を行います。

施設長方針にて発信された「脳の健康教室」の開催にむけて準備していきます。高齢者率の高いこの地域に、施設の持っている情報・介護技術・知識、そして認知症予防効果のある学習療法を提供することで当施設も含めた町づくりの一環・町内の一員になっていけるように工夫、努力します。

今年度地域貢献事業テーマが「学習療法」であることから、まず地域の方々への紹介、そして理解、さらに協力へと歩を進めていけるように入念に丁寧に段取りを組んでいき年度内開校を目指します。

(8) その他

災害時には人命の守護はもちろんのこと、ご入居者の日常が滞ることなく、また不安なく安心して生活できるよう関係機関との連絡、調整を図りライフラインの確保をはじめ最大限の対処をします。

東日本大震災から丸 2 年が経過しましたが「あたりまえの日常」がどんなにありがたいことかを忘れることなく日々勤めたいと思います。



ショップ



カフェ

2013 ハピネスやくら事業計画

事業名	特別養護老人ホーム ハピネスやくら			
作成者	部署名	食事サービス部門	役職名	管理栄養士
	氏名	下柘棚 美郷		
年度目標 テーマ	暮らしの中に食の楽しみを ～「日常」と「特別」～			
<p>昨年度、ユニットケアへ移行したことにより、食事提供方法も大きく変化しました。米飯の炊飯・盛り付け等にユニット職員が携わる事で、ご入居者に食事を「暮らし」の一部として感じて頂くことが出来たのではないかと感じています。今年度は、様々なイベント食を企画し、施設生活の中に「特別」を感じて頂けるよう、上記の年度目標・テーマを設定します。</p> <p>(1) 厨房委託計画</p> <p>日々変化のご入居者の身体状態、また個々の生活スタイル・要望に合わせた食事提供に柔軟に対応して頂けるよう随時交渉を行っていきます。</p> <p>献立作成についてはコスト面、作業面について委託会社との打ち合わせを密に行い、施設栄養士のイメージする献立の実現に向け、取り組んでいきます。</p> <p>また、厨房職員の食事時のラウンドについても定期的を実施していきたいと思えます。</p> <p>(2) 施設内、ユニットケアにおける食事サービスについて</p> <p>前年度に引き続き、米飯の炊飯・盛り付け、汁物の温め・盛り付けは各ユニットの調理設備を利用し、ユニット職員が行っていきます。</p> <p>汁物・主菜・副菜の提供については、盛り付けから配膳の途中で冷めてしまい、温かいものを温かいまま提供することができず、ご入居者へ御迷惑をおかけすることがありました。今年度は配膳車の活用、また提供方法を見直すことで上記問題の解決に向け取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>また、今年度は厨房職員による、ユニットの調理設備を活用した食事提供を企画していきます。目の前で調理された食事が提供されることで、普段の食事とは違う雰囲気を入居者様に味わっていただければと思えます。</p>				

2013 ハピネスやくら事業計画

(3) メニュー内容

日々のラウンドや嗜好調査から得られた情報をもとに、委託会社と協働のもと日々の生活の中でご入居者に「楽しみ」と思っただけの食事づくりを目指します。

また、季節の行事食の他に、選択食やバイキング食、日本各地の郷土料理を献立に取り入れた「日本全国郷土料理の旅」等イベント食を企画していきます。

《2013 年度 季節の献立（予定）》

月 日	行事名	月 日	行事名
4月1日	開設記念	12月	忘年会(ユニット行事)
5月5日	端午の節句	12月24日	クリスマスイブ
6月	バイキング	12月31日	大晦日(年越しそば)
7月7日	七夕	1月1日	元旦(おせち料理)
7月22日	土用の丑の日	1月7日	七草粥
8月	ハピネスやくら夏祭り	2月	八戸郷土料理
8月13日	盆の入り	2月3日	節分
9月	敬老会	2月14日	バレンタインデー
9月23日	秋分の日	3月3日	桃の節句
11月1日	寿司の日	3月21日	春分の日

(4) 栄養マネジメント計画

今年度は「褥瘡ゼロ」を目標に、栄養面からも褥瘡の予防・治癒に取り組んでいきます。個々の身体状況、摂食状況を各記録や日々のラウンド、各部署からの情報収集によって把握し、スリーニング・アセスメントを実施。低栄養の予防、自分らしい施設生活の実現を目標に、個別のケア計画を作成していきます。

(5) 残渣調査

ご入居者の嗜好だけではなく、食材別の食べにくさの傾向についても分析、把握していきます。調査結果に基づき提供方法について検討、喫食量の増加に努めます。

(6) 衛生面への取り組み

ユニットキッチンの衛生マニュアルについては、周知・徹底するとともに、確実に実施出来ているかを定期的に点検し、ユニットキッチンの清潔保持、食中毒発生予防に努めます。また、異物混入発見時、食中毒発生時には各マニュアルを活用、各部署と連携し迅速に対応していきます。

(7) 苦情対応

前年度、食事サービス部門へは1件の苦情が寄せられました。(献立内容に対するもの)

ご入居者、ご家族より寄せられた苦情に関しては謙虚に受け止め、苦情内容を把握した上で委員会・会議等で厨房委託会社を含む関連職種とともに解決策・予防策について検討、再発防止に努めます。

(8) 経口維持加算（Ⅰ、Ⅱ）、経口移行加算（口腔リハビリ）への取り組み

- ・前年度、口腔リハビリが導入され、経口維持加算（Ⅰ）2名、経口移行加算2名の加算算定に至りました。2013年度も「最期まで安全に口から美味しく食べて頂く」という全職員共通の意識・理解のもと取り組んでいきます。また、適宜勉強会を実施する等、生活援助員が中心となって口腔リハビリをすすめていけるよう、専門職としてサポートしていきます。
- ・前年度は粥ミキサーの離水による誤嚥の危険性が問題として挙げられました。2013年度はスベラカーゼ粥の導入をはじめ、上記問題の改善に向け取り組んでいきます。また、嚥下食についても計画的に献立に取り入れ、日常の食事に組み込む為のベース作りに取り組めます。



敬老会 祝い膳

2013 ハピネスやくら事業計画

事業名	居宅介護支援事業 ケアステーションハピネスやくら			
作成者	部署名	居宅介護支援	役職名	施設長
	氏名	加賀 しのぶ		
年度目標 テーマ	地域高齢者の在宅ニーズの把握と 在宅で暮らし続けるための適切な支援提供			
<p>特別養護老人ホームハピネスやくらが開設して一年が経過しました。</p> <p>ユニット型特養 50 名及び従来型特養 20 名に加え、在宅サービスを担う定員 10 名の短期入所生活介護の専用個室ユニットが併設され、在宅での生活を継続するための支援を提供しています。</p> <p>八戸市の高齢化率は 26%、ハピネスやくらが在る八戸市館地区の高齢化率は 30%を超え、地域の行事や催事の中心は 60～70 代の元気な方々である事、又、強いリーダーシップを持つ連合町内会長のもと、地域の団結力は強靱であり、小さなコミュニティーながら、子供から高齢者まで地域で支える体制が整備されている地域であるという特徴があります。</p> <p>ハピネスやくらは、地域の中心となっている前期高齢者の方々が、元気で暮らし続けるため、介護予防としての関わりと、地域資源を適切に活用し、要介護者が地域で暮らし続けるための支援を提供していきます。</p> <p>更に、ハピネスやくらが地域にあることの意義を踏まえ、地域と施設を繋ぐための一役を担っていく活動をしていきます。</p> <p>1 地域への浸透</p> <p>1) 事業所近隣の他事業所や在宅介護支援センターからの情報収集、連携を図り、地域のニーズを把握していきます。</p> <p>2) 地域活動に参加し、情報収集を行いながら、ネットワークの構築を継続して行います。</p> <p>3) 「脳の健康教室」の開催に向けてニーズ把握と支援を行う活動を行います。</p> <p>2 専門職としての相談援助技術の向上</p> <p>1) 主任介護支援専門員に資格取得を目指します</p> <p>2) 各関係機関の研修に積極的に参加し、相談援助の向上を図ります。</p> <p>3) 同法人内の介護支援専門員交流会への参加により、自分には無い考え方、援助方法を吸収し、スキルアップに繋げていきます。</p>				

2013 ハピネスやくら事業計画

3 コンプライアンスへの取り組み

1) 日々の業務の中で、事業所内の職員間でお互いに確認を取りながら、介護保険制度に準じた業務を、忠実に取り組んでいきます。

〈研修予定〉

上半期	4月	5月	6月	7月	8月	9月
内部研修			成年後見人制度について			医療との連携について
外部研修	行政主催研修他	〃	地域ケアマネ研修会	行政主催研修他	〃	〃
下半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内部研修			認定調査について			介護予防計画について
外部研修	行政主催研修他	〃	地域ケアマネ研修会	行政主催研修他	〃	〃

〈事業予定〉

上半期	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	関係機関挨拶周り	町内会長、民生委員情報収集	関係機関情報収集	関係機関情報収集	関係機関情報収集	やわたの祭り参加
下半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	町内会長、民生委員情報収集	地域活動参加	関係機関情報収集	関係機関情報収集	地域活動へ参加	地域活動参加

2013 ハピネスやくら事業計画

事業名	ケアステーションハピネスはちのへ			
作成者	部署名	作成者	部署名	作成者
	氏名	小泉 哲		
年度目標 テーマ	利用者の希望に沿える支援を			
<p>事業所地域に、特別養護老人ホームハピネスやくらが開設し、在宅介護への相談件数は着実に多くなっています。又、地域活動への継続的な参加により、事業所の認知度も上がり、近隣の住民の方から声をかけられる機会も増えています。</p> <p>当居宅介護支援事業所における法人内の在宅サービス利用割合は、訪問介護 42.4%、通所介護 15.7%、福祉用具貸与 87.6%です。訪問介護の紹介率については、有料老人ホームの利用者や、介護タクシーの利用者増により、低い数字となっています。</p> <p>介護度別利用者数については、これまでは軽度（1, 2）の利用者数が大半を占めていましたが、重度（3, 4, 5）の利用者数を拡大する事が出来ました。</p> <p>今年度は介護支援専門員 1 名体制で業務を行い、担当利用者数については法人内居宅介護支援事業所と連携し、コントロールを行っていきます。</p> <p>1. 地域への浸透</p> <p>3) 事業所近隣の他事業所や在宅介護支援センターからの情報収集、連携を図り、地域のニーズを把握していきます。</p> <p>4) 地域活動に参加し、情報収集を行いながら、ネットワークの構築を継続して行います。</p> <p>3) 今年度の続き、事業所町内である、新荒町の三社大祭へ参加します。</p> <p>2. 専門職としての相談援助技術の向上</p> <p>1) 主任介護支援専門員に資格取得を目指します</p> <p>2) 各関係機関の研修に積極的に参加し、相談援助の向上を図ります。</p> <p>3) 同法人内の介護支援専門員交流会への参加により、自分には無い考え方、援助方法を吸収し、スキルアップに繋げていきます。</p> <p>3. コンプライアンスへの取り組み</p> <p>2) 日々の業務の中で、事業所内の職員間でお互いに確認を取りながら、介護保険制度に準じた業務を、忠実に取り組んでいきます。</p>				

2013 ハピネスやくら事業計画

〈研修予定〉

上半期	4月	5月	6月	7月	8月	9月
内部研修			成年後見人制度について			医療との連携について
外部研修	行政主催 研修他	〃	地域ケア マネ研修 会	行政主催 研修他	〃	〃
下半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内部研修			認定調査について			介護予防計画について
外部研修	行政主催 研修他	〃	地域ケア マネ研修 会	行政主催 研修他	〃	〃

〈事業予定〉

上半期	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	関係機関 挨拶周り	ゴミゼロ 運動参加	町内会長、 民生委員 情報収集	ゴミゼロ 運動参加	三社大祭 参加	
下半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	町内会長、 民生委員 情報収集	ゴミゼロ 運動参加	関係機関 挨拶周り		地域活動 へ参加	関係機関 挨拶周り

2013 ハピネスやくら事業計画

2013年度居宅介護支援事業所ケアステーションハピネスはちのへ事業計画&予算案

(単位:千円)

2013年度				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計		
ケアM人数				1.0人	1.0人	1.0人	1.0人	1.0人	1.0人	1.0人	1.0人	1.0人	1.0人	1.0人	1.0人			
プラン 件数	居宅介護 支援費	1~39	要介護1、2 1,300単位	26	27	27	27	27	28	28	28	27	27	27	28	327		
			要介護3、4、5 1,300単位	9	9	9	9	8	8	8	8	7	7	7	7	96		
		40~59	要介護1、2 600単位															
			要介護3、4、5 780単位															
		60~	要介護1、2 400単位															
			要介護3、4、5 520単位															
	小計			35	36	36	36	35	36	36	36	34	34	34	35	423		
	介護予防支援			391単位	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5	5	5	51	
	総プラン数				39	40	40	40	39	40	40	40	38	39	39	40	474	
	初回加算			300単位		1				1				1		1	4	
収入	居宅介護支援費				377	387	387	387	374	384	384	361	361	361	371	4,518		
	介護予防支援費			391月	15	15	15	15	15	15	15	15	19	19	19	192		
	初回加算費			300月		3				3			3		3	12		
	特定事業所加算(Ⅰ)			500月														
	特定事業所加算(Ⅱ)			300月														
	入院時情報連携加算Ⅰ			200月														
	入院時情報連携加算Ⅱ			100月														
	退院・退所加算(Ⅱ)			300月					3				3				6	
	認知症加算			150月	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72	
	独居高齢者加算			150月	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84	
認定調査			300回	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72		
収入合計				411	424	421	421	411	421	418	418	398	402	399	412	4,956		

2013 ハピネスやくら事業計画

事業名	ケアステーションハピネスはちのへ			
作成者	部署名	訪問介護	役職名	サービス提供責任者
	氏名	坂上 加奈子		
年度目標 テーマ	信頼と安心の絆			

昨年同様「信頼と安心の絆」をテーマに、利用者又は居宅支援事業所との信頼と安心の絆を深め、訪問介護員の質の向上を図り、選んで頂ける事業所を目指し収入増に繋げていきます。

これからの生活を共に考え心のこもったサービス提供を行い、支援の充実を図っていくと共に、広い地域にも目を向け、事業所（法人）訪問をし、信頼と安心を広げていきます。

〈研修予定〉

上半期	4月	5月	6月	7月	8月	9月
内部研修 (個別)	緊急時対応	介護保険制度	家事援助とは	移乗、移動介助	入浴・手浴・足浴	接遇
外部研修		ヘルパー部会	三事業合同ヘルパー会議		ヘルパー部会	
下半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内部研修 (個別)	口腔ケア	感染症について	記録について	介護計画	事例検討	隣接医療行為
外部研修	三事業合同ヘルパー会議		ヘルパー部会			三事業合同ヘルパー会議

〈五戸、ながわ、はちのへ三事業所ヘルパー会議〉

- ・年3回開催
- ・各事業所問題ケース等報告し、対応検討。
- ・各事業所問題点報告、話し合い。
- ・伝達研修

〈活動内容〉

1. 居宅介護支援事業所・行政への定期訪問の継続をしていきます。
 - 1) 新規居宅へ、空き状況作成し訪問する。
 - 2) 実績やサービス提供状況報告書等を持参し、信頼関係を深めていく。
 - 3) 他事業所への適度な訪問を継続し、情報交換を行う。

2. 事業所内・外部研修に参加し、知識・技術の向上と管理体制の構築。
 - 1) 外部研修（サービス提供責任者の役割、コミュニケーション技術、認知症ケア）・内部研修（法人内）に積極的に参加し、その研修内容を生かす為に伝達研修を行う。
 - 2) 個別研修を定期的に行い個々人のスキルアップを図る。
 - 3) 五戸、ながわ、はちのへ、3事業所のヘルパー会議の継続。
 - 4) 研修参加で自己研鑽とネットワーク作りを行っていく。

3. コンプライアンスの徹底と自己評価を行い安全な運営体制の維持
 - 1) サービス提供責任者のチェック体制の徹底。
 - 2) 3ヶ月に1回の自己評価の集計・会議。
 - 3) 事業遂行状況のモニタリング。

4. 法人内居宅との連携を強化し、紹介件数を増やして行きます。
 - ・ 法人内居宅からの紹介 39.1%→40.6%
 - ・ 他事業所からの紹介 60.9%→59.4%

2013 ハピネスやくら事業計画

2013年度 訪問介護事業所 ケアステーションハピネスはちのへ 事業収支

単位：千円

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	
法人居宅ケアプラン数（介護）		8件	8件	8件	8件	8件	8件	8件	8件	8件	8件	8件	8件	96件	
法人居宅ケアプラン数（介護予防）		1件	1件	1件	1件	1件	1件	1件	1件	1件	1件	1件	1件	12件	
他事業所ケアプラン数（介護）		10件	11件	12件	12件	13件	13件	13件	14件	14件	14件	14件	14件	154件	
他事業所ケアプラン数（介護予防）		4件	4件	4件	4件	4件	5件	6件	6件	6件	6件	6件	6件	61件	
訪問介護利用者数（介護）		18件	19件	20件	20件	21件	21件	21件	22件	22件	22件	22件	22件	250件	
訪問介護利用者数（介護予防）		5件	5件	5件	5件	5件	6件	7件	7件	7件	7件	7件	7件	71件	
人配置	サービス提供責任者数	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	12人	
	常勤ヘルパー数	2人	2人	2人	2人	2人	2人	2人	2人	2人	2人	2人	2人	24人	
	非常勤ヘルパー数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	登録ヘルパー実働数	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	6人	
稼働時間	サービス提供責任者数一人当たり 時間/月・人	60h	60h	60h	60h	60h	60h	65h	60h	60h	60h	60h	65h	680h	
	常勤ヘルパー一人当たり 時間/月・人	200h	212h	215h	215h	236h	240h	240h	230h	220h	210h	190h	210h	2618h	
	非常勤ヘルパー一人当たり 時間/月・人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	登録ヘルパー一人当たり 時間/月・人	50h	50h	50h	50h	50h	50h	50h	50h	50h	50h	45h	50h	566h	
総時間数		310h	322h	325h	325h	346h	350h	355h	330h	320h	310h	285h	315h	3693h	
収入	訪問介護（身体）～30未満 254単位	185	191	191	191	215	215	209	209	209	220	178	194	2387千円	
	訪問介護（身体）1h～1.5h 402単位	32	32	32	32	48	48	48	48	48	32	32	32	471千円	
	訪問介護（身1生1） 324単位	134	137	142	142	169	169	157	157	142	130	107	121	1714千円	
	訪問介護（身1生1夜朝） 465単位	55	55	55	55	55	55	55	55	55	45	45	45	620千円	
	訪問介護（身1生2） 394単位	30	30	30	30	30	30	30	30	76	76	49	76	1017千円	
	訪問介護（身2生1） 472単位	37	37	37	37	28	28	28	28	28	28	25	28	369千円	
	訪問介護（生活援助）45h未満 190単位	35	35	35	35	31	31	31	34	34	34	35	34	1126千円	
	訪問介護（生活援助）45h以上 235単位	275	275	299	299	311	311	299	299	275	275	247	275	3440千円	
	介護予防（Ⅰ）月 1,220単位/月	24	24	24	24	24	26	26	26	26	26	26	26	372千円	
	介護予防（Ⅱ）月 2,440単位/月	72	72	72	72	72	72	72	97	97	97	97	97	1020千円	
	介護予防（Ⅲ）月 3,870単位/月	33													
	特定事業所加算（Ⅰ） 加算 20.0%														
	特定事業所加算（Ⅱ） 加算 10.0%		121	121	126	126	110	114	110	110	105	121	91	121	1253千円
	特定事業所加算（Ⅲ） 加算 10.0%														
小規模事業所加算 10.0%															
生活機能向上連携加算															
初回加算 200単位/月			2	2		2			2					8千円	
介護予防初回加算 200単位/月								2	2					4千円	
緊急時訪問介護加算 100単位/月															
合計		1101	1115	1165	1165	1216	1216	1221	1222	1229	1145	1114	1002	13801千円	

2013 ハピネスやくら事業計画

事業名	ケアステーションハピネスはちのへ 福祉用具貸与・特定福祉用具販売			
作成者	部署名	福祉用具貸与	役職名	法人本部青森次長
	氏名	武石 敏昭		
年度目標 テーマ	八戸エリアの『開拓』と既存営業エリアの『深耕』 ～さまざまな結びつきを大切に、事業の展開を行う～			

今年度は、ハピネスやくら居宅支援事業所の事業開始に伴い、ハピネスはちのへ居宅支援事業所との連携も強化し、はちのへエリアでの事業拡張に力を入れて取組みます。

五戸町、南部町方面は、既存の居宅介護支援事業所拡充と、新たに居宅介護支援事業所と取引が出来るように一層、御利用者・御家族・介護支援専門員との信頼関係構築のため、情報交換を密に行います。

また、研修会・勉強会への参加と、伝達研修を行います。営業技術の向上と業務の標準化を図り、専門的な助言・提案のできる福祉用具専門相談員となり、選ばれる事業所としてのスペシャリスト集団を目指します。

1. 実績向上の取り組み

- 1) 八戸エリアの拡充を行います。新設の個人居宅支援事業所を中心に、毎月中旬 10 件 下旬 10 件計 20 件を計画的に営業活動していきます。また、引き続き既存の事業所、取引のない事業所への訪問は毎月定期的に継続します。
- 2) 新設されるハピネスやくら居宅介護支援事業所、ハピネスはちのへ居宅支援事業所と連携し、病院の医療連携室等への営業を行い実績向上に努めます。
- 3) 五戸町、南部町方面は取引のある既存居宅支援事業所を中心に拡充をはかります。また、取引のない事業所への訪問を継続し新規取引につなげます。

	既存取引事業所	取引のない事業所
五戸町方面	4 件	3 件
南部町方面	9 件	10 件

- 4) JIS 規格対応の自社レンタルベッド 55 台の高稼働率を維持し実績向上に努めます。
- 5) 担当エリア別に、有料老人ホーム、高齢者向け専用住宅、グループホーム、小規模多機能事業所などへ営業活動を行い、福祉用具、オムツなどの消耗品販売を行います。
- 6) 2012 年度法人内居宅事業所平均シェア率は 76.8%。(2013 年 1 月現在)
利用者のニーズ、新規利用、退院等の情収集を積極的に行い、シェア率 90%を目指します。
また、法人内居宅介護支援事業所の情報交換会を活用し、新製品の情報提供を行います。

法人内シェア率の推移

	2011 年度	2012 年度	2013 年度
五 戸	73.0%	77.6%	90.0%
な が わ	57.9%	64.7%	90.0%
は ち の へ	87.6%	88.0%	90.0%
や く ら	—	—	90.0%
平 均	73.1%	76.8%	90.0%

2. 御利用者・御家族・介護支援専門員との信頼関係を構築

- 1) 福祉用具個別援助計画の作成、定期的な訪問・モニタリングの実施を行います。また、写真添付による福祉用具設置の報告書・定期点検報告書を継続して行います。
- 2) 必要時には法人内の理学療法士を同行し、福祉用具の選定を行います。御利用者には専門的な視野から安心した福祉用具を選定。福祉用具専門相談員、介護支援専門員は専門的な知識向上が図られます。

3. 職員研修

- 1) 簡単な整備、修理に対応できるように、ミーティングや毎月の会議を活用して研修を行います。技術・知識の共通認識により、業務の標準化を図ります。
- 2) セミナー、専門的研修会に参加し、最新の情報が提供できるように努めます。
- 3) 国際福祉機器展に参加し、新製品の情報収集、選定の視野を広めます。

見学先	実施時期	参加人数
東 京	9 月	1 人

- 4) 卸業者の工場見学（青森…サンネット又はランダル、仙台…柏木）を行い商品の清掃、消毒、管理状態などの確認を行います。

見学先	実施時期	参加人数
青森(サンネット)	6 月	2 人
仙台(柏木)	10 月	1 人

4. 地域参画

- 1) 町内会活動へ参加し、事業所の周知を図ります。
 - ・ 八戸三社大祭へ町内会として参加を継続します。
 - ・ 毎朝の事務所前の歩道、バス停の清掃を継続し、地域美観に貢献します。
- 2) 五戸町、南部町の産業と文化祭りに参加し、新商品を含む福祉用具と事務所の PR を行います。

2013 ハピネスやくら事業計画

5. コンプライアンスへの取り組み

- 1) 介護保険法の基準を再確認し、業務上の優先順位の見直しを行います。
- 2) 毎朝の朝礼を行い、点ではなく線としての活動により、日々の業務の確認、情報共有が図られるようにします。
- 3) 出来ない、分からないという事が無いように、それぞれの業務の見直しと共有を行い、個々の業務バランスの調整と標準化を図ります。

2013 年度 福祉用具貸与等 収入見込み 上半期

(単位;千円)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
介護保険利用者数		170	183	188	193	198	203	
貸与	新規	8	10	10	10	10	10	
	終了	5	5	5	5	5	5	
	ベッド	既存レンタル	41	43	69	81	81	81
		自社	55	55	55	55	55	55
	ベッド(件)		96	98	124	136	136	136
	収入		960	980	1,240	1,360	1,360	1,360
	車椅子(件)		56	60	64	66	66	66
	収入		224	240	256	264	264	264
	床ずれ防止用具(件)		56	58	62	64	64	64
	収入		476	493	527	544	544	544
	その他(件)		180	188	200	212	212	212
	収入		495	517	550	583	583	583
	一般レンタル(件)		4	4	4	4	4	4
	収入		10	10	10	10	10	10
	貸与収入計 A		2,165	2,240	2,583	2,761	2,761	2,761
販売	特定福祉用具販売(件)	7	7	7	7	7	7	
	収入	126	126	126	126	126	126	
	その他物販(件)	35	35	35	35	35	35	
	収入	210	210	210	210	210	210	
販売収入計 B		336	336	336	336	336	336	
収入総合計(A+B)		2,501	2,576	2,919	3,097	3,097	3,097	

2013 ハピネスやくら事業計画

2013 年度 福祉用具貸与等 収入見込み 下半期

(単位：千円)

		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
介護保険利用者数		208	210	212	212	212	212	2,412	
貸与	新規	10	10	10	8	8	8	8	
	終了	8	8	8	8	8	8	8	
	ベッド	既存レンタル	85	85	85	75	75	75	876
		自社	55	55	55	55	55	55	660
	ベッド(件)	140	140	140	130	130	130	1,536	
	収入	1,400	1,400	1,400	1,300	1,300	1,300	15,360	
	車椅子(件)	66	66	64	64	64	64	766	
	収入	264	264	256	256	256	256	3,064	
	床ずれ防止用具(件)	66	66	66	64	64	64	758	
	収入	561	561	561	544	544	544	6,443	
	その他(件)	220	220	220	210	210	210	2,494	
	収入	605	605	605	578	578	578	6,859	
	一般レンタル(件)	4	4	4	4	4	4	48	
	収入	10	10	10	10	10	10	120	
	貸与収入計 A	2,840	2,840	2,832	2,688	2,688	2,688	31,846	
販売	特定福祉用具販売(件)	7	7	7	7	7	7	84	
	収入	126	126	126	126	126	126	1,512	
	その他物販(件)	35	35	35	35	35	35	420	
	収入	210	210	210	210	210	210	2,520	
	販売収入計 B	336	336	336	336	336	336	4,032	
収入総合計(A+B)	3,176	3,176	3,168	3,024	3,024	3,024	35,878		